

平成26年度

病 院 年 報



珠洲市総合病院

病 院 理 念

“市民の心の支えとなる地域の中核病院に”

1. 疾病の予防から在宅医療までの一環した体制の確立を目指します。
1. 安心と信頼の地域医療を目指します。
1. いたわりの心で皆様の健康と命を守ります。

基 本 方 針

私たちは、市民に信頼され、期待される病院であり続けるために、次のことに努めます。

1. 地域の人々に適切な医療を提供し、併せて健康の増進に努めます。
1. 医師をはじめ医療技術者等の研鑽を重ね、加えて研修・実習を担当し、技術の向上、医療水準の向上発展に努めます。
1. 地域の医療機関等との連携を図り、地域に不足している分野の強化推進と、地域における役割分担を認識した、医療提供に努めます。
1. 患者さん中心の医療を堅持し、患者サービスの向上を図り、地域の人々に、信頼され、地域への貢献に努めます。
1. 患者さんの権利の尊重とプライバシー保護を遵守し、看護の継続性の充実に努めます。
1. 患者さんが快適な環境で治療に専念でき、また職員が希望をもって働ける明るい病院とし、併せて経営の健全化に努めます。
1. 病院全体に静かで明るい雰囲気、文化の香り豊かな病院づくりに努めます。

目 次

第1章 病院の沿革及び現況

1. 病院の沿革	1
2. 病院の概要	5
3. 職員の現況	7
4. 病院組織機構図	8

第2章 決算の概要

1. 収益費用明細書	9
2. 資本的収入及び支出	12
3. 貸借対照表	14

第3章 業務の概要

1. 患者の状況	16
(1) 入院・外来別患者数	16
(2) 外来初診患者数	17
(3) 平均在院日数	18
(4) 病床利用率	18
(5) 休日及び時間外救急取り扱い患者数	19
(6) 救急隊別患者搬入取り扱い件数	21
(7) 科別救急車搬入取り扱い件数	22
2. 紹介患者数の状況	23
(1) 地域別紹介件数	23
(2) 自院からの紹介科室別内訳	23
(3) 他院からの紹介科室別内訳	24
3. 手術の状況	25
4. 在宅医療及び介護認定の状況	26
(1) 訪問診察・往診件数	26
(2) 科別利用者及び経管栄養・経口者件数	26
(3) 訪問看護件数	26
(4) 主治医意見書作成件数	26
(5) 訪問リハビリ件数	26

5. リハビリテーションの状況	27
6. 放射線の状況	29
(1) 撮影件数	29
7. 分娩の状況	31
(1) 分娩の状況	31
(2) 分娩集計	32
8. 給食及び栄養指導の状況	35
(1) 患者給食数	35
(2) 栄養指導数	35
(3) 平均残食率	35
9. 医療相談の状況	36
(1) 医療相談の状況	36
(2) 医療相談状況内容	36
10. 臨床検査の状況	38
11. 内視鏡検査の状況	40
12. 健診及び人間ドックの状況	41
13. 人工透析の状況	42
14. 薬剤部の状況	43

第1章 病院の沿革及び現況

1. 病院の沿革

昭和 25 年	10 月 6 日	珠洲郡飯田町外 10 ヶ町村厚生医療組合立珠洲郡中央病院として開院 病院の名称／珠洲郡中央病院 病床数／一般 30、伝染病 15
昭和 27 年	3 月	伝染病棟新築 病床数／一般 60、伝染病 20、結核 15
昭和 29 年	7 月	結核病棟新築 病床数／一般 60、伝染病 20、結核 40
昭和 30 年	7 月	構成町村の統廃合により、珠洲市外一町厚生医療組合立珠洲郡中央病院となる
昭和 35 年	4 月	珠洲郡中央病院は珠洲市に帰属し名称を「珠洲市国民健康保険中央病院」と改称し、珠洲市営病院として発足
昭和 35・36 年度		病院改築第 1 期事業として病棟改築 病床数／一般 92、結核 40
昭和 37 年	5 月	「基準看護」承認 基準給食承認
	8 月	基準寝具承認
昭和 38・39 年度		病院改築第 2 期事業として診療及び管理棟新築
昭和 39 年	6 月	救急告示病院指定
昭和 42 年	9 月	総合病院の指定承認・病院の名称を「国民健康保険珠洲市総合病院」と改める 病床数／一般 100、結核 40 診療科目／内科、外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科
	10 月	整形外科開設
	12 月	基準看護「一類看護」承認
昭和 45 年	4 月	小児科開設
昭和 49・50 年度		結核病棟を改築し、一般病床の増床とリハビリテーション部門開設 病床数／一般 125、結核 15
昭和 50 年	6 月	基準看護「特一類看護」承認
昭和 51 年	3 月	病院改修工事施工 窓枠取替 冷房設備新設
昭和 53 年	4 月	労災指定病院指定
昭和 54 年	3 月	へき地中核病院指定 診療棟増築 へき地巡回診療開始／馬渡、大谷、折戸
昭和 56 年	1 月	脳神経外科及び皮膚科・泌尿器科を開設
	7 月	腎人工透析開始
昭和 58・59 年度		病棟増築・病院改修工事（内部改装）及び透析部門増築
昭和 59 年	5 月	増床許可 病床数／一般 175、結核 15 診療科目／内科、外科、小児科、眼科、産婦人科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科
	9 月	全身用 CT スキャナー設置
昭和 62 年	4 月	眼科医師常勤開設
	7 月	へき地巡回診療地域の変更（馬渡→上黒丸）
	9 月	病院運営協議会発足
昭和 63 年	2 月	作業療法施設基準承認
	4 月	耳鼻咽喉科常勤開設
	9 月	へき地巡回診療地域の変更（上黒丸中止）
	10 月	脳神経外科常勤開設
平成元年	9 月	脳神経外科専用病棟完成（改造工事） 看護単位の変更（3 単位→4 単位）
	12 月	大谷診療所移転新築（旧大谷診療所廃止）
平成 2 年	6 月	三崎診療所廃止（昭和 48 年 5 月以降休診）
	7 月	新大谷診療所開設

平成3年	4月	基準看護「特二類看護」承認
平成4年	4月	皮膚科開設
	8月	磁気共鳴断層撮影装置（MR I）設置
平成6年	4月	訪問看護室設置
	7月	基準病衣承認
平成7年	5月	新看護体系承認 一般病棟／新看護（A）2.5：1 結核病棟／新看護（A）4：1
平成8年	6月	医療相談室設置
平成9年	2月	災害拠点病院指定
	3月	新病院建設工事完成
	5月	新病院竣工式 結核医療機関の指定
	6月	名称を「珠洲市総合病院」として珠洲市野々江町ユ部1番地1で開院 病床数／199床（一般160、療養型32、結核7） 診療科目 10科→14科（神経内科、リハビリテーション科、精神科、放射線科を追加標榜） 院内にオーダーリングシステムの導入 処方・検査・給食・放射線オーダー等の導入 県内公立病院で初めて療養型病床群を新設 寝食分離による患者食堂（ダイルーム）設置（3箇所） R I（核医学診断装置）、泌尿器科用X線装置、血管造影装置等の導入
	11月	泌尿器科常勤開設
平成10年	9月	金沢医科大学附属病院より麻酔医派遣（毎週月曜日派遣）
平成11年	6月	外来診療に予約制を一部導入
	9月	財務会計・固定資産・物品管理電算システムを構築 駐車場新設工事施工（駐車台数92台可能）
	11月	介護保険施設指定（許可）申請（介護療養型医療施設 定員8人）
平成12年	1月	指定居宅介護支援事業者指定（許可）申請 （指定居宅サービスはみなし指定）
	3月	生活保護法指定介護機関指定申請
	4月	介護サービスの提供開始（医療保険と介護保険制度が確立）
平成13年	4月	リハビリテーション科に言語聴覚士採用
	8月	病床種別の届出（一般160、療養32、結核7）
	9月	術中病理画像伝送装置（テレパソロジー）設置 金沢大学医学部病理学教室へ診断依頼 周産期母子医療支援システムの導入
	11月	健診科開設・健診システムの導入
平成14年	4月	週休二日制の試行開始（完全土曜日閉院） 皮膚科常勤開設
	7月	神経内科の休止
平成15年	1月	能登北部の病院における診療を支援するための相互応援体制に関する覚書締結
	4月	へき地医療拠点病院に指定 泌尿器科の診療が毎週2回（火曜・金曜日）に変更
	5月	医療相談窓口コーナーの設置（ソーシャルワーカーの常駐）
平成16年	1月	院内完全禁煙実施（喫煙コーナーの設置・分煙機の撤去）
	3月	金沢大学附属病院臨床研修病院指定（協力型臨床研修施設）
	4月	泌尿器科の診療が隔週火曜日のみに変更
	12月	新医療情報システムを構築して運用開始 個人情報保護推進委員会を組織する

平成 17 年	4 月	個人情報保護法が施行される	
	5 月	市民ボランティア活動開始（正面玄関前交通整理等）	
	10 月	金沢大学寄附講座「地域医療学講座」の開設 呼吸器外科の診療開始	
平成 18 年	4 月	地域医療連携室を開設、 外来窓口業務を全面委託化 泌尿器科の診療が週 1 回（月曜日）に変更 入院基本料届出 一般・結核病棟 13 対 1 看護補助加算届出 一般病棟 10 対 1	
	6 月	診療録管理委員会の組織を設置	
	7 月	船員法施行規則第 57 条第 4 号の規定に基づく医師として指定 石川県地域医療支援医師修学資金貸与事業の経費負担の協力締結 入院基本料届出 一般・結核病棟 10 対 1 施設基準届出 療養病棟 8 割未満	
	9 月	金沢医科大学病院臨床研修病院指定（協力型臨床研修施設） 遠隔放射線画像支援システムが稼働 金沢大学放射線科との送受信開始	
	11 月	遠隔画像診断の施設基準届出	
	平成 19 年	1 月	診療録管理規定・記録開示指針等の制定 障害者自立支援法第 54 条第 2 項の規定による指定自立支援 医療機関の指定（更正医療・育成医療）
		2 月	船員保険生活習慣病予防健診委託契約締結 公立宇出津総合病院と「医療連携・病院経営合同懇談会」 （第 1 回）の開催
		4 月	皮膚科の診療が週 3 回（月・水・木曜日）に変更（非常勤） 「糖尿病予防教室」と名称変更し開設（一般住民にも開放） 石川県看護師等修学資金貸与事業に要する経費負担の協定締結
		5 月	院内に自動体外式除細動器（AED）配置
		7 月	精神科の診療が毎週金曜日に変更 病院派遣型再就職支援事業の申出書提出
	平成 20 年	12 月	金沢大学寄附講座「地域医療学講座」研究結果報告
4 月		能登北部地域医療協議会の発足	
7 月		マルチスライス CT 装置を更新 能登脳卒中地域連携クリティカルパスに参加	
	10 月	石川県地域医療支援センターと石川県地域医療人材バンクの連携により、内科医が 1 名着任 日本眼科学会専門医制度研修施設の認定	
平成 21 年	1 月	会計システム（POS レジ）を導入	
	2 月	「珠洲市総合病院改革プラン」策定	
	4 月	眼科の診療が週 2 回（水・金曜日）の午後に変更（非常勤） 精神科の診療が週 2 回（水・金曜日）に変更	
平成 22 年	2 月	磁気共鳴画像診断装置（MR I）を更新	
	5 月	医師住宅 A 棟・B 棟を新築（野々江町地内）	
	9 月	検査室に自動分析装置を更新	
平成 23 年	3 月	医師住宅 C 棟を新築（野々江町地内）	
平成 24 年	2 月	血管撮影（造影）装置を導入	
	3 月	医師住宅（野々江住宅 1、2 号棟）を改築 JA すずしより JA 共済「地域の安全・安心プロジェクト」 高規格救急車寄附収受	
	8 月	WHO・ユニセフより「赤ちゃんにやさしい病院（BFH）」に認定	

平成 24 年	11 月	院内ナースコール更新 院内空調設備更新
平成 25 年	1 月	電子カルテシステムに移行
	3 月	医師住宅（野々江マンション）を改築
	4 月	産婦人科に毎週木曜日禁煙外来を開設
	5 月	検査室に循環器超音波診断システムを導入
平成 26 年	3 月	地域医療連携ネットワークサービス「ID-Link」稼動 飯田医師住宅 1 号棟をリフォーム 飯田医師住宅 2 号棟を新築 珠州市総合病院災害対応マニュアル策定
	7 月	県より石川 DMAT 指定病院に指定 県と「石川 DMAT の出動に関する協定書」を締結
	10 月	地域包括ケア入院医療管理料届出
平成 27 年	1 月	放射線画像のフィルムレス運用開始

2.病院の概要

名 称	珠洲市総合病院
所 在 地	珠洲市野々江町ユ部1番地1 T E L 0768-82-1181 (代表) F A X 0768-82-1191 E-mail byouin@city.suzu.lg.jp
開 設 者	珠洲市長 泉谷 満寿裕
病 院 長	浜田 秀剛
敷地面積	46,366.55 m ²
建物延面積	12,249.30 m ²
診療科目 (13科)	内科、外科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、整形外科、 脳神経外科、泌尿器科、皮膚科、精神科、放射線科、 リハビリテーション科
許可病床数	199床 (一般160床、療養型32床、結核7床)
保険診療	10:1 入院基本
診療指定	保険医療機関、救急指定病院、へき地医療拠点病院、災害拠点病院 労災保険指定医療機関、結核医療機関、生活保護法指定医療機関 母体保護法指定病院、特定疾患治療研究医療機関、養育医療機関 被爆者一般疾病医療機関、小児慢性特定疾患治療医療研究機関 身体障害福祉法腎臓更正医療担当医療機関 身体障害福祉法耳鼻咽喉科更正医療担当医療機関 労災特別加入健診指定医療機関
施設基準	【基本診療料】 一般病棟入院基本料(10対1) 療養病棟入院基本料 結核病棟入院基本料(10対1) 看護必要度加算2 地域包括ケア入院医療管理料1 救急医療管理加算 妊産婦緊急搬送入院基本料 診療録管理体制加算 医師事務作業補助体制加算2(25対1) 急性期看護補助体制加算(50対1) 重症者等療養環境特別加算 重症皮膚潰瘍管理加算 感染防止対策加算2 患者サポート体制充実加算 ハイリスク妊娠管理加算 退院調整加算1 救急搬送患者地域連携紹介加算 救急搬送患者地域連携受入加算 データ提出加算

施設基準

【特掲診療料】

高度難聴指導管理料 がん性疼痛緩和指導管理料 ニコチン依存症管理料
ハイリスク妊産婦共同管理料Ⅰ がん治療連携指導料
地域連携診療計画管理料 薬剤管理指導料 在宅療養支援病院
在宅患者訪問看護・指導料 地域連携診療計画管理料
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
検体検査管理加算Ⅰ 時間内歩行試験 コンタクトレンズ検査料Ⅰ
遠隔画像診断 CT 撮影及び MRI 撮影 外来化学療法加算Ⅱ
無菌製剤処理料Ⅰ 大動脈バルーンパンピング法
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)・初期加算
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)・初期加算
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)・初期加算
透析液水質確保加算Ⅱ 経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈ステント留置術 ペースメーカー移植術・交換術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6(歯科点数表第 2 章第 9 部の
通則 4 を含む。)に掲げる手術
輸血管理料Ⅱ 輸血適正使用加算 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

【その他】

入院時食事療養法(Ⅰ)特別管理

3. 職員の現況

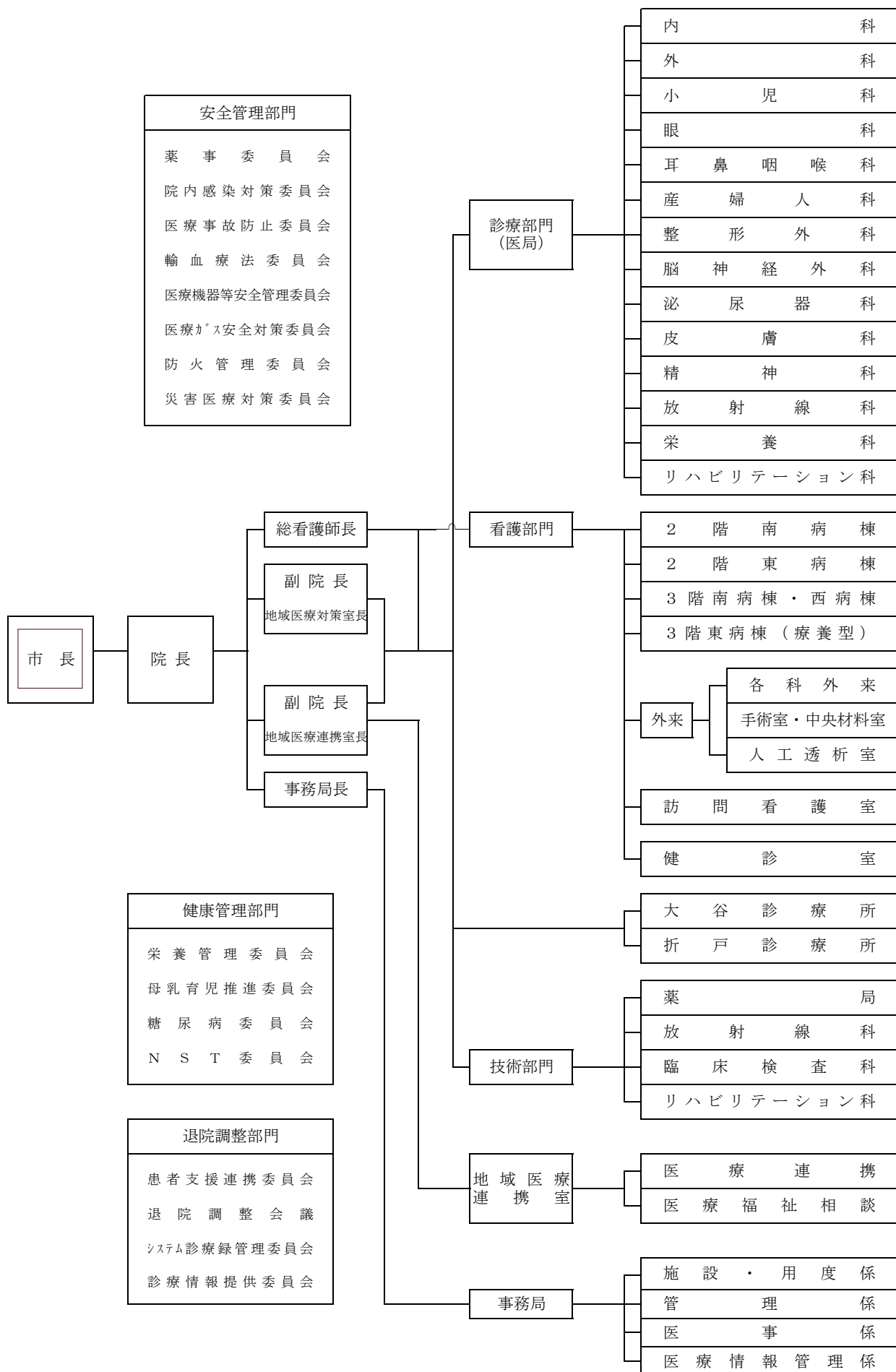
職員数の推移（各年度3月31日現在）

（単位：人）

年 度 職 種		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
		正職員	臨職員	正職員	臨職員	正職員	臨職員
医 師		14	2	14	2	13	3
看 護 部 門		123	25	126	23	128	23
内 訳	看 護 師	88	14	90	12	94	10
	助 産 師	6		7		6	
	保 健 師	1		2		2	
	准 看 護 師	15		14		13	1
	看 護 助 手	13	11	13	11	13	12
医 療 技 術 部 門		36	7	35	8	35	7
内 訳	薬 剤 師	7	1	7		7	
	診 療 放 射 線 技 師	7		7		7	
	臨 床 検 査 技 師	7	1	7	3	7	1
	作 業 療 法 士	4		3		3	
	理 学 療 法 士	7		7		7	
	言 語 聴 覚 士	2		2		2	
	管 理 栄 養 士	2		2		2	
	栄 養 士		1		1		1
	そ の 他		4		4		5
事 務 職 員		18	7	18	9	18	9
そ の 他 の 職 員		2	15	2	16	2	17
内 訳	調 理 師		14		15		16
	技 術 員	2	1	2	1	2	1
総 計		193	56	195	58	196	59

珠洲市総合病院組織機構図

平成26年4月1日現在



第2章 決算の概要

1. 収益費用明細書

(単位:円、%)

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業収益	4,074,169,610	101.0	4,008,373,912	98.4	4,074,604,053	101.7
医業収益	3,806,898,872	103.7	3,741,057,239	98.3	3,649,286,291	97.5
入院収益	1,644,992,871	104.5	1,599,092,012	97.2	1,505,224,649	94.1
外来収益	1,931,672,999	102.8	1,903,454,539	98.5	1,915,646,401	100.6
その他医業収益	150,415,452	110.9	146,892,227	97.7	142,375,485	96.9
室料差額収益	31,290,222	104.2	28,996,248	92.7	24,273,153	83.7
一般会計負担金	45,136,000	97.5	45,128,000	100.0	44,982,000	99.7
へき地巡回収益	2,509,490	85.6	2,661,620	106.1	2,933,250	110.2
公衆衛生活動収益	42,678,047	128.4	45,717,312	107.1	47,387,670	103.7
受託検査施設利用収益	11,171,471	102.3	10,991,751	98.4	11,026,348	100.3
その他医業収益	17,630,222	143.9	13,397,296	76.0	11,773,064	87.9
介護保険収益	79,817,550	98.0	91,618,461	114.8	86,039,756	93.9
居宅サービス収益	27,310,407	83.5	34,789,888	127.4	36,607,808	105.2
施設サービス収益	49,123,347	109.5	53,951,516	109.8	46,381,741	86.0
その他雑収益	3,383,796	88.4	2,877,057	85.0	3,050,207	106.0
医業外収益	262,929,894	73.1	267,316,673	101.7	416,658,722	155.9
受取利息及び配当金	238,868	16.7	240,956	100.9	748,970	310.8
預金利息	238,868	16.7	240,956	100.9	748,970	310.8
他会計補助金	76,909,800	52.9	77,684,000	101.0	83,835,000	107.9
一般会計補助金	69,264,800	49.5	70,292,000	101.5	76,311,000	108.6
国保会計補助金	7,645,000	139.1	7,392,000	96.7	7,524,000	101.8
県支出金	13,529,000	82.5	13,484,000	99.7	13,247,000	98.2
県補助金	13,529,000	82.5	13,484,000	99.7	13,247,000	98.2
負担金交付金	107,481,000	79.1	109,107,000	101.5	105,377,000	96.6
一般会計負担金	107,481,000	79.1	109,107,000	101.5	105,377,000	96.6
長期前受金戻入	0		0		147,476,076	皆増
患者外給食収益	1,763,956	77.3	1,403,531	79.6	1,326,201	94.5
その他医業外収益	63,007,270	108.2	65,397,186	103.8	64,648,475	98.9
不用品売却収益	1,690	203.6	887	52.5	0	皆減
その他雑収益	62,805,580	108.2	65,196,299	103.8	64,598,475	99.1
寄附金	200,000	100.0	200,000	100.0	50,000	25.0
特別利益	4,340,844	77.2	0	皆減	8,659,040	皆増
固定資産売却収益	0		0		0	
過年度損益修正益	4,340,844	77.2	0	皆減	8,659,040	皆増
診療所事業収益	7,153,762	93.0	7,647,100	106.9	8,251,058	107.9
大谷診療所医業収益	7,091,762	153.8	7,612,100	107.3	8,235,475	108.2
外来収益	7,091,762	153.8	7,612,000	107.3	8,235,475	108.2
その他医業収益	0		0		0	
公衆衛生活動収益	0		0		0	
医療相談収益	0		0		0	
その他医業収益	0		0		0	
大谷診療所医業外収益	62,000	2.0	35,000	56.5	15,000	42.9
受取利息及び配当金	0		0		0	
預金利息	0		0		0	
他会計補助金	8,000	0.5	0	皆減	0	
一般会計補助金	0		0		0	
国保会計補助金	8,000	0.5	0	皆減	0	
負担金交付金	54,000	3.5	35,000	64.8	15,000	42.9
一般会計負担金	54,000	3.5	35,000	64.8	15,000	42.9
その他医業外収益	0		0		0	
その他雑収益	0		0		0	
特別利益	0		0		583	皆増
過年度損益修正益	0		0		583	皆増
収益合計	4,081,323,372	101.0	4,016,021,012	98.4	4,082,855,111	101.7

(単位：円、%)

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業費用	3,959,711,800	97.5	3,970,195,151	100.3	4,893,207,454	123.2
医業費用	3,724,605,812	97.9	3,719,368,293	99.9	3,750,139,715	100.8
給与費	1,777,846,903	100.0	1,724,517,798	97.0	1,745,211,134	101.2
給料	681,461,522	96.9	671,193,768	98.5	685,252,025	102.1
手当	466,437,070	105.5	468,145,947	100.4	381,340,958	81.5
賞与引当金繰入額	0		0		81,550,000	皆増
賃金	250,152,733	119.9	252,597,846	101.0	260,618,685	103.2
報酬	0		0		0	
法定福利費	255,804,328	103.1	252,112,789	98.6	263,683,788	104.6
退職給与金	123,991,250	70.5	80,467,448	64.9	72,765,678	90.4
材料費	1,302,252,536	100.5	1,353,711,108	104.0	1,305,143,811	96.4
薬品費	1,063,567,445	96.5	1,092,504,502	102.7	1,087,791,996	99.6
診療材料費	202,456,132	127.4	224,298,142	110.8	182,237,178	81.2
給食材料費	32,696,029	101.2	32,920,739	100.7	30,675,203	93.2
医療消耗備品費	3,532,930	116.4	3,987,725	112.9	4,439,434	111.3
経費	429,102,226	109.6	441,703,698	102.9	446,487,680	101.1
旅費交通費	10,238,506	123.0	9,726,168	95.0	9,424,840	96.9
職員被服費	2,814,370	155.4	580,517	20.6	2,157,049	371.6
消耗品費	19,859,326	107.3	23,897,809	120.3	20,161,435	84.4
消耗備品費	1,393,245	136.4	507,040	36.4	1,494,459	294.7
光熱水費	54,450,964	101.8	56,469,687	103.7	58,792,726	104.1
燃料費	36,179,860	125.9	43,104,577	119.1	29,877,445	69.3
食糧費	53,783	674.2	52,402	97.4	57,135	109.0
印刷製本費	1,205,676	25.5	2,314,527	192.0	681,377	29.4
修繕費	39,520,026	161.3	23,016,324	58.2	25,190,531	109.4
保険料	11,400,004	103.1	11,262,096	98.8	10,978,566	97.5
賃借料	37,322,062	91.6	40,183,646	107.7	40,216,246	100.1
通信運搬費	3,183,048	101.8	3,261,856	102.5	3,217,490	98.6
委託料	200,751,656	109.4	215,518,191	107.4	231,270,219	107.3
交際費	422,961	122.0	398,475	94.2	417,047	104.7
諸会費	1,510,265	100.8	1,530,669	101.4	1,751,230	114.4
公課費	138,800	118.0	39,400	28.4	81,600	207.1
役務費	2,152,383	96.8	2,133,732	99.1	2,026,780	95.0
貸倒引当金繰入額	0		0		665,210	皆増
雑費	6,505,291	85.3	7,706,582	118.5	8,026,295	104.1
減価償却費	169,961,452	56.8	150,937,631	88.8	218,908,678	145.0
建物減価償却費	62,549,173	113.7	59,725,318	95.5	69,204,766	115.9
建物附属設備減価償却費	24,047,376	15.7	6,742,018	28.0	16,393,048	243.1
構築物減価償却費	5,591,521	100.0	5,591,521	100.0	5,591,521	100.0
器械器具減価償却費	68,112,503	87.4	68,905,144	101.2	113,420,644	164.6
車両減価償却費	4,162,862	625.3	5,194,797	124.8	7,290,303	140.3
備品減価償却費	5,498,017	78.7	4,778,833	86.9	7,008,396	146.7
資産減耗費	6,706,314	119.1	16,994,606	253.4	2,610,654	15.4
たな卸資産減耗費	0		0		0	
固定資産除却費	6,706,314	119.1	16,994,606	253.4	2,610,654	15.4
研究研修費	7,474,976	108.5	6,797,212	90.9	7,134,031	105.0
研究材料費	0		0		0	
謝金	112,000	皆増	170,478	152.2	146,301	85.8
図書費	1,849,853	64.0	1,828,821	98.9	2,358,112	128.9
旅費	3,983,112	129.8	3,745,184	94.0	3,778,079	100.9
研究雑費	1,530,011	164.9	1,052,729	68.8	851,539	80.9
へき地巡回医療費	3,178,645	70.2	3,063,474	96.4	3,802,209	124.1
給料	1,905,596	99.3	1,632,405	85.7	1,893,238	116.0
手当	494,647	33.4	541,189	109.4	602,866	111.4
賃金	0		0		0	
法定福利費	200,930	77.4	161,390	80.3	219,039	135.7
へき地巡回経費	577,472	66.4	728,490	126.2	1,087,066	149.2
へき地医療診療支援システム費	23,988,708	111.7	21,642,766	90.2	20,841,518	96.3
消耗品費	147,000	296.4	195,000	132.7	113,400	58.2
通信運搬費	156,948	88.3	150,506	95.9	149,858	99.6
賃借料	9,725,760	96.7	9,725,760	100.0	9,725,760	100.0
委託料	13,959,000	124.7	11,571,500	82.9	10,852,500	93.8

(単位：円、%)

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
消耗備品費	0		0		0	
医業外費用	232,576,275	94.6	226,983,264	97.6	266,960,328	117.6
支払利息及び企業債取扱諸費	138,508,941	90.4	130,523,780	94.2	122,699,757	94.0
企業債利息	138,508,941	90.4	130,523,780	94.2	122,699,757	94.0
一時借入金利息	0		0		0	
繰延勘定償却	5,529,648	119.2	5,079,468	91.9	3,760,583	74.0
控除対象外消費税額償却	5,529,648	119.2	5,079,468	91.9	3,760,583	74.0
患者外給食材料費	3,038,047	86.2	3,109,636	102.4	2,793,317	89.8
給食材料費	3,038,047	86.2	3,109,636	102.4	2,793,317	89.8
消費税及び地方消費税	0		0		0	
雑支出	85,499,639	101.3	88,270,380	103.2	137,706,671	156.0
その他雑支出	85,499,639	101.3	88,270,380	103.2	137,706,671	156.0
特別損失	2,529,713	20.1	23,843,594	942.5	876,107,411	3,674.4
過年度損益修正損	2,529,713	20.1	23,843,594	942.5	2,966,550	12.4
その他特別損失	0		0		873,140,861	皆増
診療所事業費用	6,991,115	90.9	5,527,200	79.1	5,144,407	93.1
大谷診療所医業費用	6,974,854	91.0	5,514,865	79.1	5,117,659	92.8
給与費	5,088,534	142.2	3,167,740	62.3	3,921,052	123.8
給料	234,283	28.2	365,005	155.8	240,076	65.8
手当	828,813	109.9	562,484	67.9	753,725	134.0
賃金	3,540,641	215.0	1,943,426	54.9	2,553,202	131.4
法定福利費	484,797	140.8	296,825	61.2	374,049	126.0
材料費	1,585,563	41.6	2,024,849	127.7	707,624	34.9
薬品費	1,585,563	41.6	2,024,849	127.7	707,624	34.9
診療材料費	0		0		0	
医療消耗備品費	0		0		0	
経費	219,878	86.5	241,397	109.8	408,104	169.1
旅費交通費	0		0		0	
職員被服費	0		0		0	
消耗品費	7,860	208.9	12,171	154.8	0	皆減
消耗備品費	0	皆減	0		40,900	皆増
光熱水費	0		0		0	
燃料費	62,814	115.9	67,728	107.8	88,930	131.3
印刷製本費	0		0		0	
修繕費	0		0		125,000	皆増
保険料	115,072	98.5	114,905	99.9	114,738	99.9
賃借料	6,174	34.1	18,405	298.1	10,114	55.0
通信運搬費	27,958	98.7	28,188	100.8	28,422	100.8
委託料	0		0		0	
役務費	0		0		0	
雑費	0	皆減	0		0	
減価償却費	80,879	312.6	80,879	100.0	80,879	100.0
建物減価償却費	0		0		0	
備品減価償却費	80,879	312.6	80,879	100.0	80,879	100.0
研究研修費	0		0		0	
図書費	0		0		0	
旅費	0		0		0	
研究雑費	0		0		0	
大谷診療所医業外費用	15,736	64.6	12,335	78.4	26,748	216.8
支払利息及び企業債取扱諸費	10,504	59.5	6,934	66.0	3,364	48.5
企業債利息	10,504	59.5	6,934	66.0	3,364	48.5
雑支出	5,232	78.0	5,401	103.2	23,384	433.0
その他雑支出	5,232	78.0	5,401	103.2	23,384	433.0
特別損失	525	448.7	0	皆減	0	
過年度損益修正損	525	448.7	0	皆減	0	
費用合計	3,966,702,915	97.5	3,975,722,351	100.2	4,898,351,861	123.2

当年度純損益	114,620,457	△ 433.0	40,298,661	35.2	△ 815,496,750	△ 2,023.6
--------	-------------	---------	------------	------	---------------	-----------

2. 資本的收入及び支出

収 入

(単位:円、%)

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業資本的收入	610,671,000	208.8	437,877,000	71.7	366,938,000	83.8
企業債	155,000,000	301.0	158,800,000	102.5	120,500,000	75.9
県支出金	146,367,000	367.5	35,854,000	24.5	0	皆減
県補助金	146,367,000	367.5	35,854,000	24.5	0	皆減
他会計負担金	264,304,000	131.4	239,779,000	90.7	242,118,000	101.0
一般会計負担金	264,304,000	131.4	239,779,000	90.7	242,118,000	101.0
他会計補助金	40,000,000	皆増	3,444,000	8.6	4,320,000	125.4
国保会計補助金	40,000,000	皆増	3,444,000	8.6	4,320,000	125.4
寄付金	5,000,000	皆増	0	皆減	0	
診療所事業資本的收入	297,000	112.9	316,000	106.4	337,000	106.6
企業債						
他会計負担金	297,000	112.9	316,000	106.4	337,000	106.6
一般会計負担金	297,000	112.9	316,000	106.4	337,000	106.6

支 出

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
病院事業資本の支出	794,252,743	150.3	581,152,429	73.2	506,756,966	87.2
建設改良費	467,522,540	220.1	226,501,835	48.4	130,640,224	57.7
営業設備費	355,692,290	788.6	115,571,435	32.5	77,461,024	67.0
備品購入費	5,774,480	151.3	18,142,740	314.2	6,436,984	35.5
医療器械購入費	339,910,200	823.3	73,245,900	21.5	71,024,040	97.0
自動車購入費	10,007,610	皆増	5,772,830	57.7	0	皆減
医師住宅整備事業費	7,962,150	4.8	42,890,400	538.7	0	皆減
(住)委託料	498,750	13.3	4,113,900	824.8	0	皆減
(住)工事請負費	7,463,400	4.7	38,734,500	519.0	0	皆減
(住)負担金	0	皆減	0		0	
(住)土地購入費						
(住)雑費	0	皆減	42,000	皆増	0	皆減
地上デジタル対応設備整備事業費	0	皆減	0		0	
工事請負費	0	皆減	0		0	
備品購入費						
院内改修事業	0		0		0	
(改)委託料						
(改)工事請負費						

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
院内空調更新事業費	78,813,000	皆増	68,040,000	86.3	0	皆減
(院内空調)委託料	483,000	皆増	1,575,000	326.1	0	皆減
(院内空調)工事請負費	78,330,000	皆増	66,465,000	84.9	0	皆減
院内設備更新事業費	25,055,100	皆増	0	皆減	0	
(院内設備)工事請負費	25,055,100	皆増	0	皆減	0	
院内電気設備等改修工事	0		0		39,484,800	皆増
委託料	0		0		0	
工事請負費	0		0		39,484,800	皆増
蒸気ボイラー更新事業費	0		0		13,694,400	皆増
工事請負費	0		0		13,694,400	皆増
企業債償還金	321,830,203	102.6	352,300,594	109.5	372,991,742	105.9
企業債償還元金	321,830,203	102.6	352,300,594	109.5	372,991,742	105.9
投資	4,900,000	204.2	2,350,000	48.0	3,125,000	133.0
長期貸付金	4,900,000	204.2	2,350,000	48.0	3,125,000	133.0
看護師等修学資金貸付金	4,900,000	204.2	2,350,000	48.0	3,125,000	133.0
診療所事業資本的支出	420,000	52.1	420,000	100.0	500,000	119.0
建設改良費	0	皆減	0		0	
営業設備費	0	皆減	0		0	
備品購入費	0	皆減	0		0	
企業債償還金	420,000	100.0	420,000	100.0	500,000	119.0
企業債償還元金	420,000	100.0	420,000	100.0	500,000	119.0

3.貸借対照表

(単位:円、%)

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
固定資産	5,164,236,852	104.1	5,214,295,668	101.0	4,861,662,358	93.2
有形固定資産	5,145,376,852	104.0	5,193,085,668	100.9	4,837,327,358	93.1
土地	1,056,779,264	100.0	1,056,779,264	100.0	1,056,779,264	100.0
建物	3,541,667,247	100.8	3,574,515,249	100.9	3,574,515,249	100.0
減価償却累計額(△)	911,050,465	111.8	963,575,783	105.8	1,155,912,421	120.0
建物附属設備	2,678,549,000	104.0	2,743,349,000	102.4	2,792,589,000	101.8
減価償却累計額(△)	2,316,448,116	108.3	2,323,190,134	100.3	2,343,028,144	100.9
構築物	604,417,995	100.0	604,417,995	100.0	604,417,995	100.0
減価償却累計額(△)	440,675,482	102.6	446,267,003	101.3	451,858,524	101.3
器械及び装置	2,302,886,428	113.8	2,217,010,528	96.3	2,259,759,528	101.9
減価償却累計額(△)	1,453,299,461	97.3	1,379,317,725	94.9	1,596,360,484	115.7
車両運搬具	51,181,320	237.6	55,542,290	108.5	55,542,290	100.0
減価償却累計額(△)	19,757,565	107.6	23,923,788	121.1	31,214,091	130.5
備品	265,823,677	103.3	297,302,477	111.8	300,583,227	101.1
減価償却累計額(△)	214,696,990	104.3	219,556,702	102.3	228,485,531	104.1
建設仮勘定	0		0		0	
投資	18,860,000	189.4	21,210,000	112.5	24,335,000	114.7
長期貸付金	18,860,000	189.4	21,210,000	112.5	24,335,000	114.7
流動資産	2,198,204,295	110.3	2,326,918,925	105.9	2,196,344,509	94.4
現金預金	1,390,065,458	108.1	1,718,565,347	123.6	1,609,068,400	93.6
未収金	794,991,734	126.0	599,606,892	75.4	575,701,826	96.0
貯蔵品	13,011,069	17.3	8,675,652	66.7	11,116,947	128.1
前払費用	122,000	62.4	57,000	46.7	0	皆減
前払金	14,034	28.8	14,034	100.0	0	皆減
その他流動資産	0		0		457,336	皆増
仮払消費税及び地方消費税	0		0		457,336	皆増
繰延勘定	43,388,455	199.5	48,730,966	112.3	54,264,076	111.4
控除対象外消費税額	43,388,455	199.5	48,730,966	112.3	54,264,076	111.4
資産合計	7,405,829,602	106.2	7,589,945,559	102.5	7,112,270,943	93.7
固定負債	0		0		4,858,932,228	皆増
企業債	0		0		4,121,659,881	皆増
引当金	0		0		737,272,347	皆増
退職給与引当金	0		0		736,607,137	皆増
修繕引当金	0		0		0	
貸倒引当金	0		0		665,210	皆増
流動負債	326,638,047	68.9	384,982,937	117.9	1,386,443,652	360.1
企業債	0		0		376,943,186	皆増
一時借入金	0		0		0	

(単位:円、%)

	平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
未払金	326,638,047	68.9	384,982,937	117.9	257,858,717	67.0
医業未払金	325,026,247	68.8	383,438,437	118.0	254,227,817	66.3
未払消費税及び地方消費税	1,611,800	100.4	1,544,500	95.8	3,630,900	235.1
引当金	0		0		136,533,724	皆増
退職給与引当金	0		0		51,929,474	皆増
賞与引当金	0		0		84,604,250	皆増
その他流動負債	0		0		0	
繰延収益	0		0		615,108,025	皆増
長期前受金	0		0		1,005,580,998	皆増
長期前受金収益化累計額(△)	0		0		390,472,973	皆増
資本金	6,548,736,209	103.2	6,354,815,615	97.0	1,603,220,806	25.2
自己資本金	1,603,220,806	152.0	1,603,220,806	100.0	1,603,220,806	100.0
借入資本金	4,945,515,403	93.5	4,751,594,809	96.1	0	皆減
企業債	4,945,515,403	93.5	4,751,594,809	96.1	0	皆減
他会計借入金	0		0		0	
剰余金	530,455,346	340.3	850,147,007	160.3	△ 736,325,743	△ 86.6
資本剰余金	1,354,330,557	56.6	1,633,723,557	120.6	0	皆減
国県補助金	731,678,000	147.5	770,976,000	105.4	0	皆減
その他資本剰余金	622,652,557	32.9	862,747,557	138.6	0	皆減
利益剰余金	△ 938,495,668	42.0	△ 823,875,211	87.8	79,171,007	△ 9.6
減債積立金	140,060,000	100.0	140,060,000	100.0	140,060,000	100.0
利益積立金	0		0		0	
建設改良積立金	0		0		0	
当年度未処理欠損金(△)	963,935,211	40.6	963,935,211	100.0	60,888,993	6.3
負債資本合計	7,405,829,602	106.2	7,589,945,559	102.5	7,112,270,943	93.7

第3章 業務の概要

1. 患者の状況

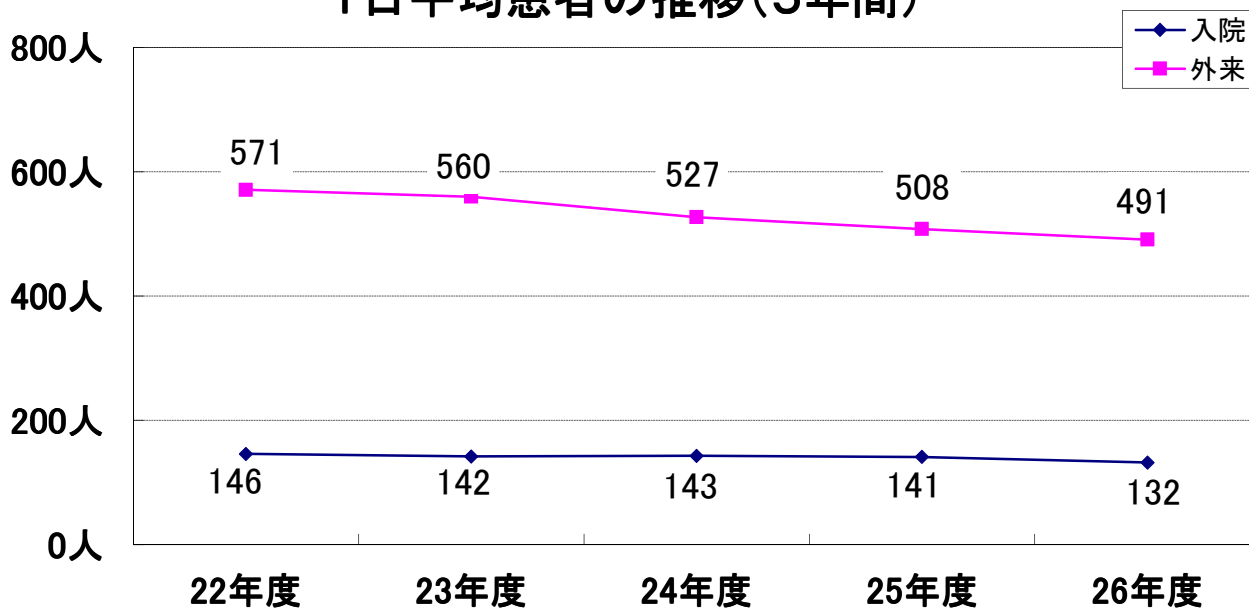
(1)入院・外来別患者数

(単位：人、%)

区 分	入 院				外 来			
	24年度	25年度	26年度	前年比	24年度	25年度	26年度	前年比
内 科	17,298	16,640	15,915	95.6	42,173	40,105	37,858	94.4
外 科	6,957	5,768	7,776	134.8	6,247	5,644	5,274	93.4
小 児 科	393	304	352	115.8	6,919	6,568	5,810	88.5
眼 科					4,025	3,744	3,321	88.7
耳鼻咽喉科	594	908	748	82.4	10,616	9,648	10,261	106.4
産婦人科	1,897	1,610	1,658	103.0	4,283	4,230	4,253	100.5
整形外科	13,100	13,726	10,428	76.0	26,399	24,752	22,783	92.0
脳神経外科	8,123	8,513	7,630	89.6	9,664	8,062	7,730	95.9
泌尿器科					(51)2,694	(52)2,831	(52)2,937	103.7
皮膚科	74	32	26	81.3	5,783	5,799	6,002	103.5
精神科					(102)4,326	(99)4,564	(97)4,992	109.4
短期入所	1,727	2,404	2,670	111.1				
介護保険	1,841	1,574	901	57.2	6,044	7,992	8,570	107.2
合 計	52,004	51,479	48,104	93.4	129,173	123,939	119,791	96.7
1ヵ月平均	4,333.7	4,289.9	4,008.7	93.4	10,764.4	10,328.3	9,982.6	96.7
1日平均	142.2	141.0	131.8	93.4	527.2	507.9	490.9	96.7

注：()内数字は稼働日数を示したもの

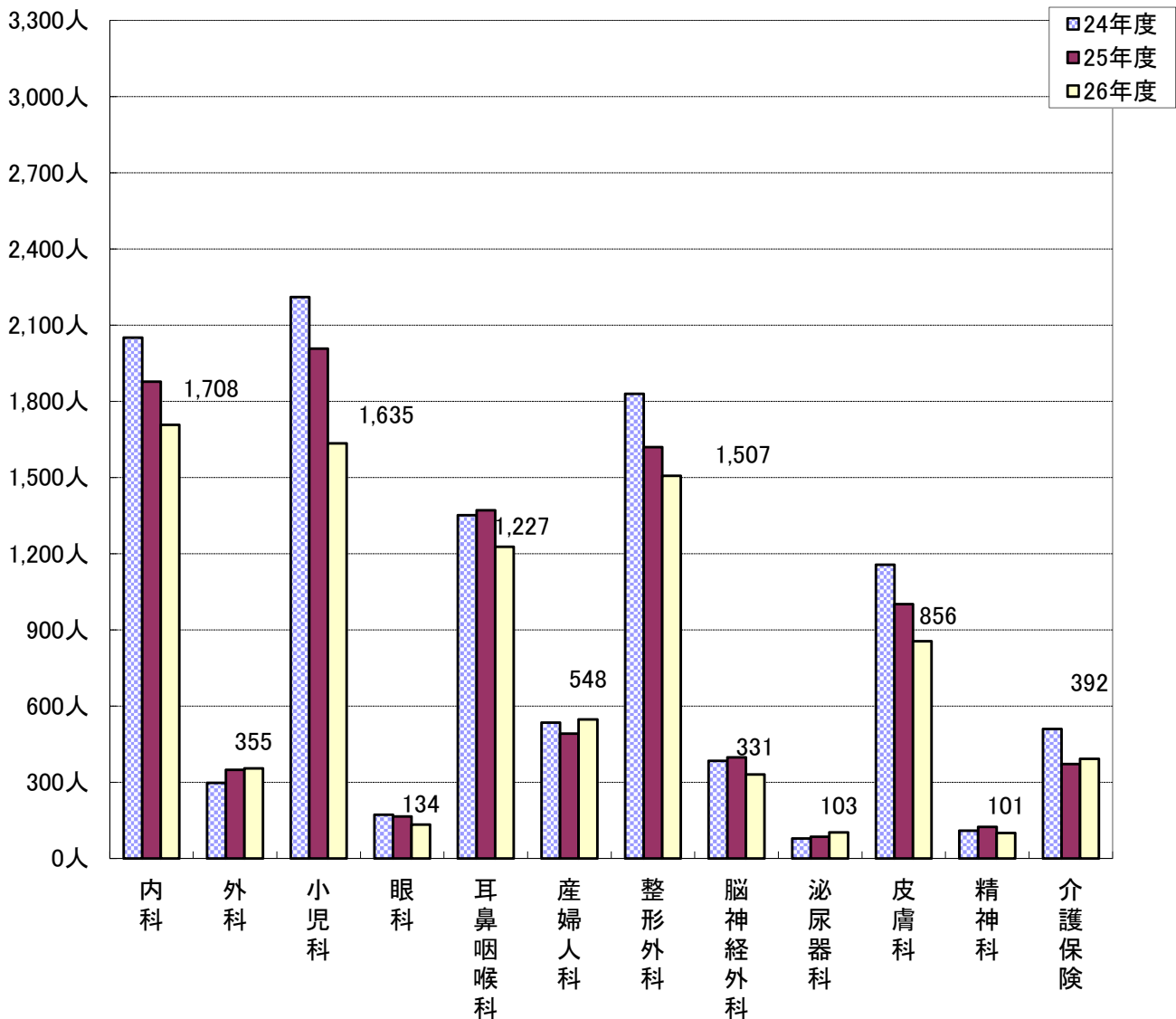
1日平均患者の推移(5年間)



(2) 外来初診患者数

(単位：人、%)

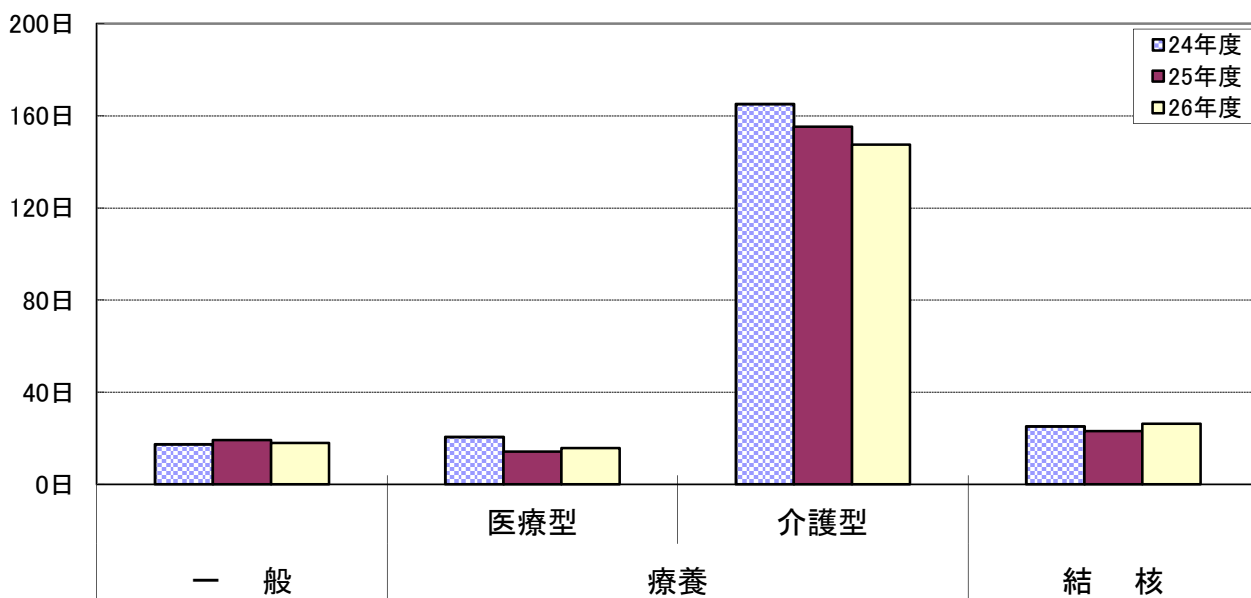
区分	24年度	25年度	26年度	前年比
内科	2,051	1,877	1,708	91.0
外科	298	349	355	101.7
小児科	2,211	2,008	1,635	81.4
眼科	172	166	134	80.7
耳鼻咽喉科	1,352	1,371	1,227	89.5
産婦人科	535	492	548	111.4
整形外科	1,830	1,620	1,507	93.0
脳神経外科	385	398	331	83.2
泌尿器科	79	86	103	119.8
皮膚科	1,157	1,002	856	85.4
精神科	110	125	101	80.8
介護保険	510	372	392	105.4
合計	10,690	9,866	8,897	90.2



(3) 平均在院日数

(単位：日)

		24年度	25年度	26年度
一	般	17.4	19.2	17.9
療養	医療型	20.6	14.2	15.7
	介護型	165.1	155.2	147.5
結	核	25.2	23.1	26.2

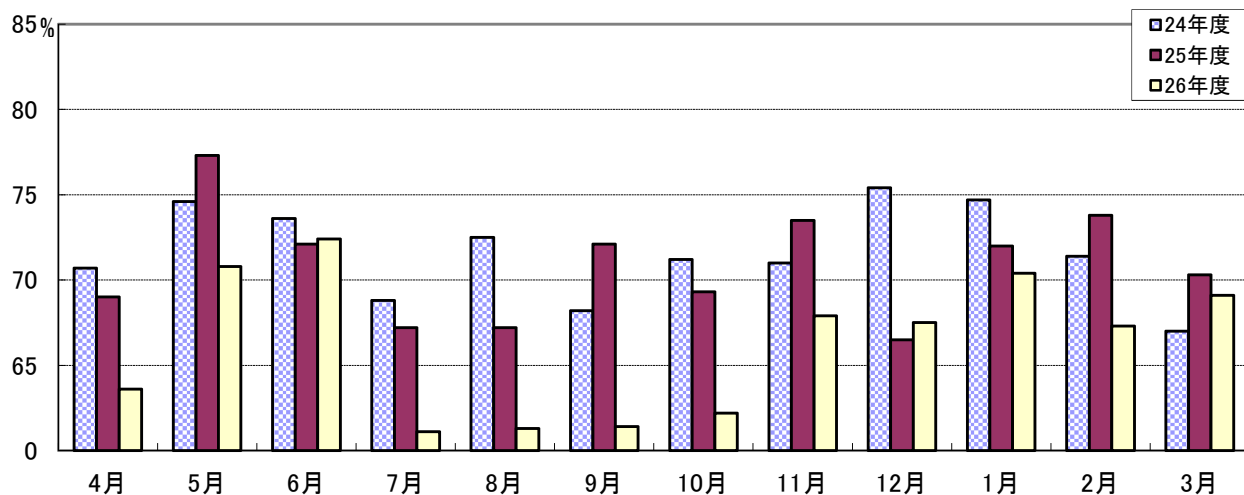


$$*平均在院日数 = \frac{\text{年間在院患者数}}{(\text{年間入院患者数} + \text{年間退院患者数}) \div 2}$$

(4) 病床利用率

(単位：%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (平均)
24年度	70.7	74.6	73.6	68.8	72.5	68.2	71.2	71.0	75.4	74.7	71.4	67.0	71.6
25年度	69.0	77.3	72.1	67.2	67.2	72.1	69.3	73.5	66.5	72.0	73.8	70.3	70.9
26年度	63.6	70.8	72.4	61.1	61.3	61.4	62.2	67.9	67.5	70.4	67.3	69.1	66.2



(5) 休日及び時間外救急取り扱い患者数

(単位：人)

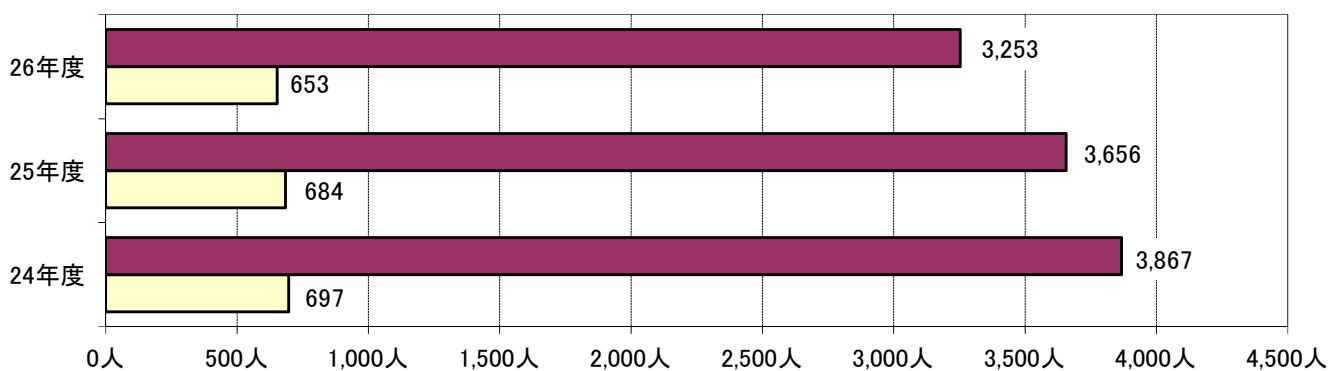
区 分	24年度	25年度	26年度
総 数	4,564	4,340	3,906
入 院	697	684	653
外 来	3,867	3,656	3,253

(単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
内科	入院	28	24	19	21	20	17	10	24	28	17	19	25	252
	外来	94	106	79	87	106	77	78	76	116	170	68	84	1,141
	小計	122	130	98	108	126	94	88	100	144	187	87	109	1,393
外科	入院	1	6	12	7	4	3	7	10	10	7	7	6	80
	外来	13	14	15	19	15	27	20	20	17	11	15	16	202
	小計	14	20	27	26	19	30	27	30	27	18	22	22	282
小児科	入院	0	2	0	5	7	0	2	0	2	1	0	0	19
	外来	32	77	21	75	57	20	30	27	97	85	41	57	619
	小計	32	79	21	80	64	20	32	27	99	86	41	57	638
眼科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	4	0	4	2	3	1	1	0	3	0	1	0	19
	小計	4	0	4	2	3	1	1	0	3	0	1	0	19
耳鼻咽喉科	入院	0	1	3	2	0	1	1	3	0	4	4	0	19
	外来	15	18	32	25	21	16	21	34	25	41	18	25	291
	小計	15	19	35	27	21	17	22	37	25	45	22	25	310
産婦人科	入院	5	13	9	10	11	6	10	10	14	10	6	6	110
	外来	3	9	10	12	12	13	3	16	14	17	7	8	124
	小計	8	22	19	22	23	19	13	26	28	27	13	14	234
整形外科	入院	9	9	6	7	6	10	9	3	9	3	1	7	79
	外来	27	48	42	39	43	37	37	24	45	26	19	28	415
	小計	36	57	48	46	49	47	46	27	54	29	20	35	494
脳神経外科	入院	7	6	7	8	5	9	6	8	5	11	12	8	92
	外来	11	23	20	19	21	20	10	20	15	12	15	10	196
	小計	18	29	27	27	26	29	16	28	20	23	27	18	288
泌尿器科	入院	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	外来	2	3	3	3	8	4	7	7	8	8	3	8	64
	小計	2	3	3	3	9	4	7	7	8	8	3	8	65
皮膚科	入院	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	外来	16	10	13	26	28	16	21	9	8	10	5	4	166
	小計	16	10	13	26	29	16	21	9	8	10	5	4	167
精神科	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外来	3	5	1	0	0	1	0	0	1	1	1	3	16
	小計	3	5	1	0	0	1	0	0	1	1	1	3	16
小計	入院	50	61	56	60	55	46	45	58	68	53	49	52	653
	外来	220	313	240	307	314	232	228	233	349	381	193	243	3,253
総合計	270	374	296	367	369	278	273	291	417	434	242	295	3,906	

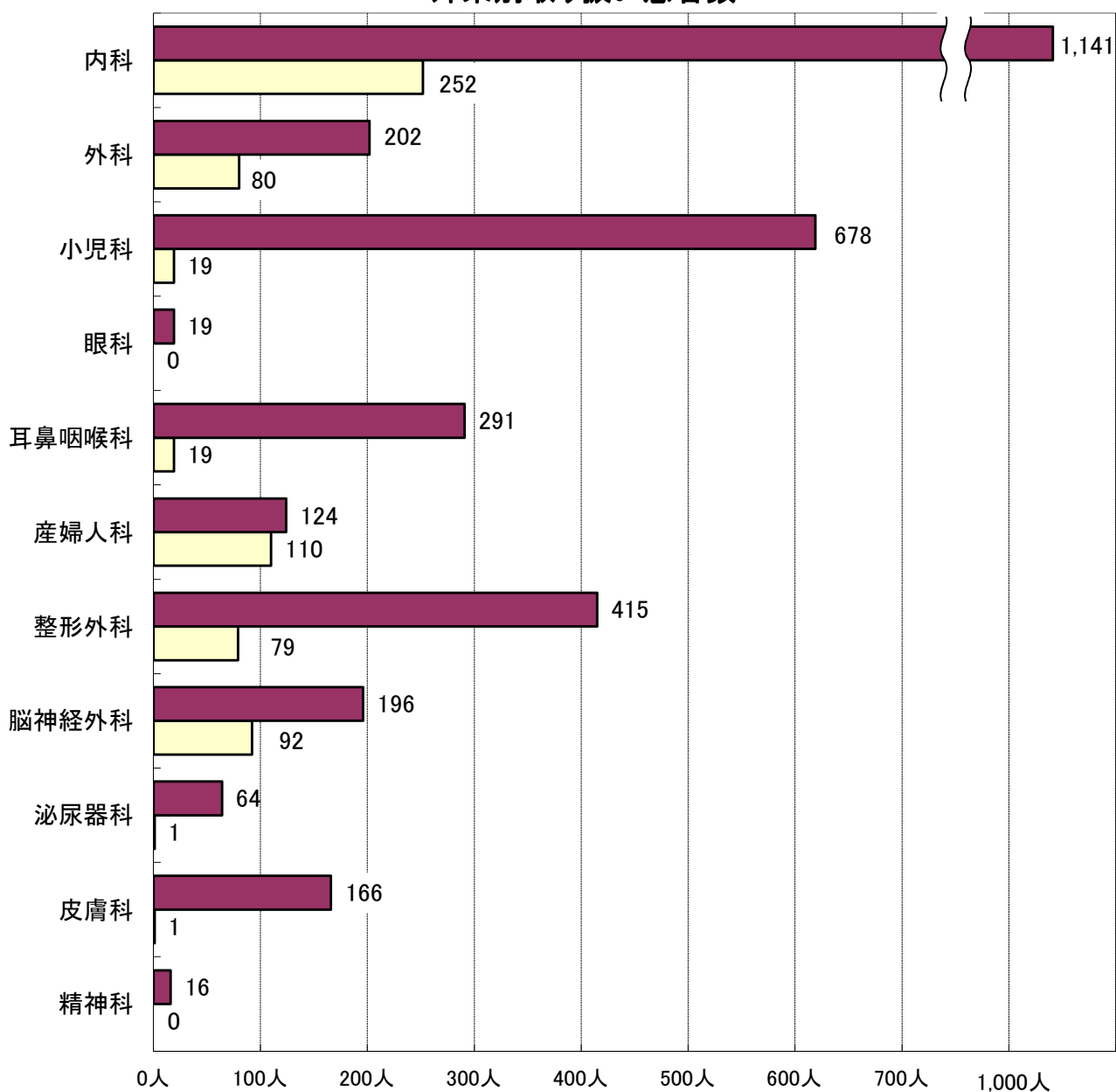
年度別取り扱い患者数(3年間)

■外 来 □入 院



外来別取り扱い患者数

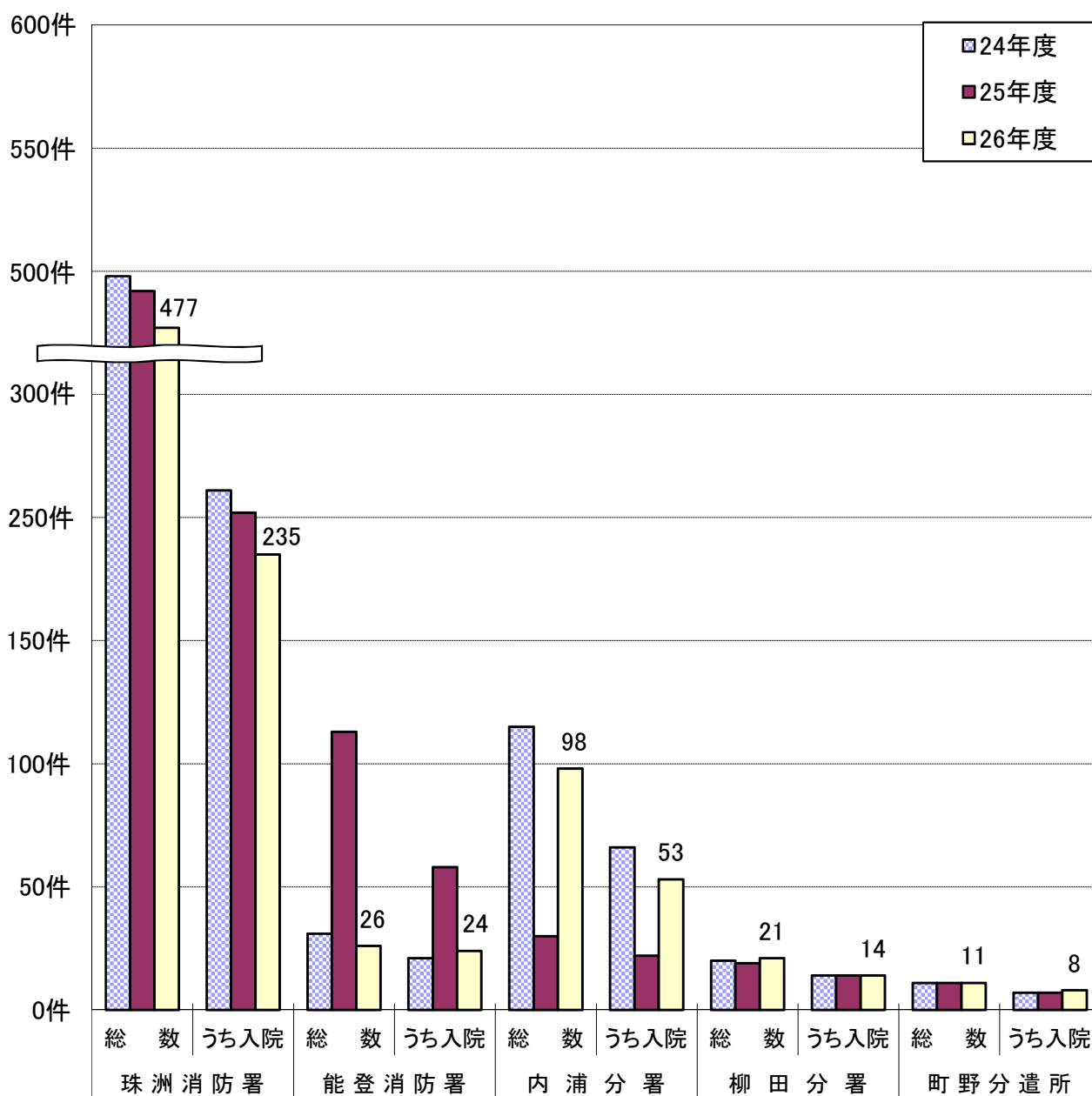
■外 来 □入 院



(6)救急隊別患者搬入取り扱い件数

(単位：件)

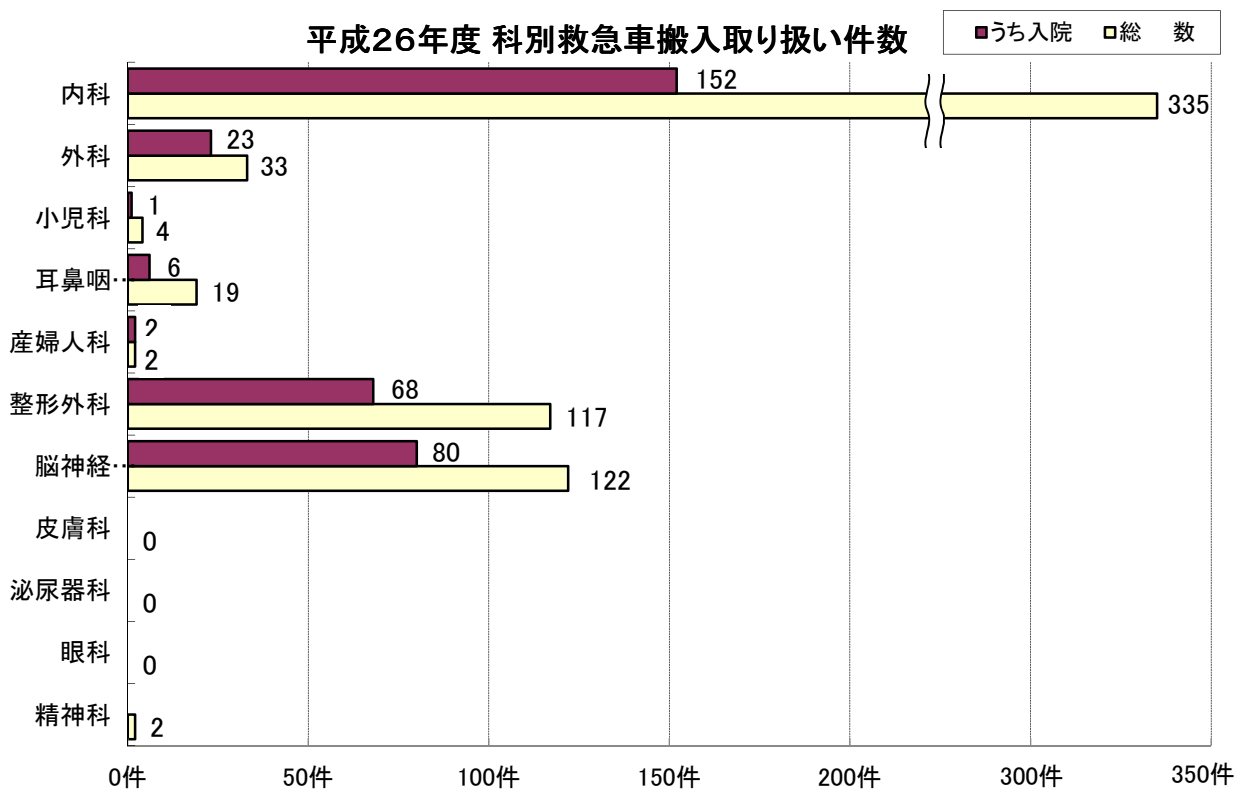
区 分		24年度	25年度	26年度
珠 洲 消 防 署	総 数	498	492	477
	うち入院	261	252	235
能 登 消 防 署	総 数	31	113	26
	うち入院	21	58	24
内 浦 分 署	総 数	115	30	98
	うち入院	66	22	53
柳 田 分 署	総 数	20	19	21
	うち入院	14	14	14
町 野 分 遣 所	総 数	11	11	11
	うち入院	7	7	8
総 数 合 計		675	665	633
入 院 合 計		369	353	334



(7)科別救急車搬入取り扱い件数

(単位：件)

区 分	24年度	25年度	26年度	
内 科	総 数	336	296	335
	うち入院	176	158	152
外 科	総 数	40	42	33
	うち入院	29	28	23
小 児 科	総 数	11	15	4
	うち入院	1	4	1
耳 鼻 咽 喉 科	総 数	17	19	19
	うち入院	6	7	6
産 婦 人 科	総 数	6	0	2
	うち入院	4	0	2
整 形 外 科	総 数	128	111	117
	うち入院	73	55	68
脳 神 経 外 科	総 数	127	170	122
	うち入院	79	101	80
皮 膚 科	総 数	7	6	0
	うち入院	0	0	0
泌 尿 器 科	総 数	1	4	0
	うち入院	0	0	0
眼 科	総 数	0	1	0
	うち入院	0	0	0
精 神 科	総 数	1	1	2
	うち入院	0	0	0
総 数 合 計		674	665	634
入 院 合 計		368	353	332



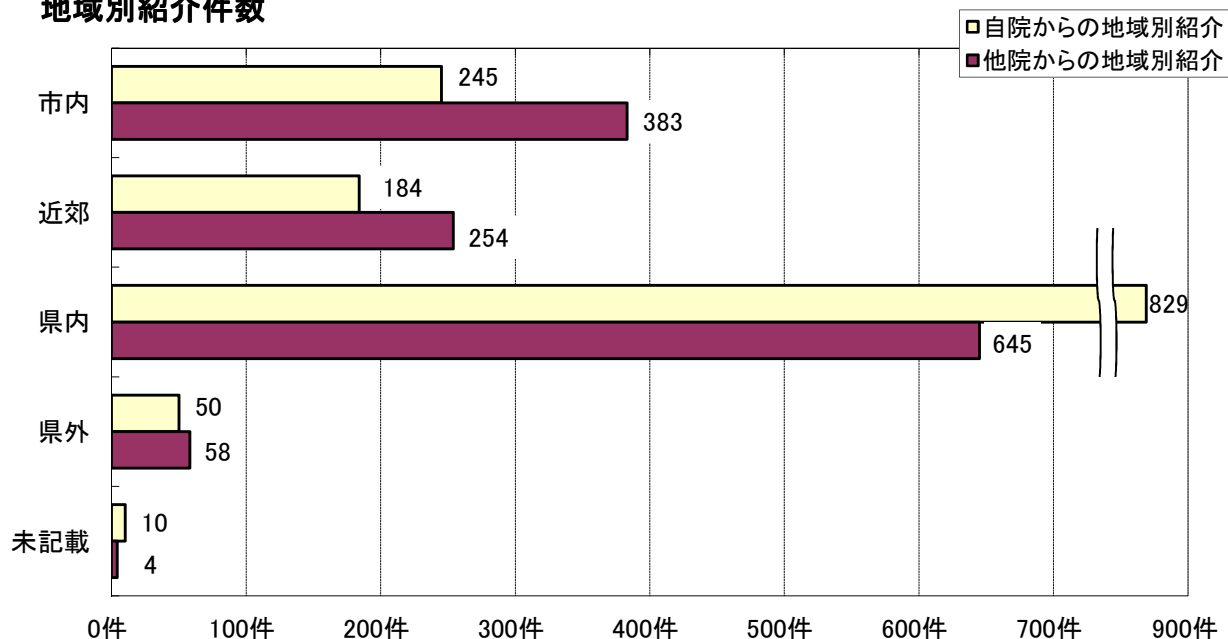
2. 紹介患者数の状況

(1) 地域別紹介件数

平成26年度
(単位：件)

区 分	自院からの地域別紹介	他院からの地域別紹介
市 内	245	383
近 郊	184	254
県 内	829	645
県 外	50	58
未 記 載	10	4
合 計	1,318	1,344

地域別紹介件数



(2) 自院からの紹介科室別内訳

平成26年度
(単位：人)

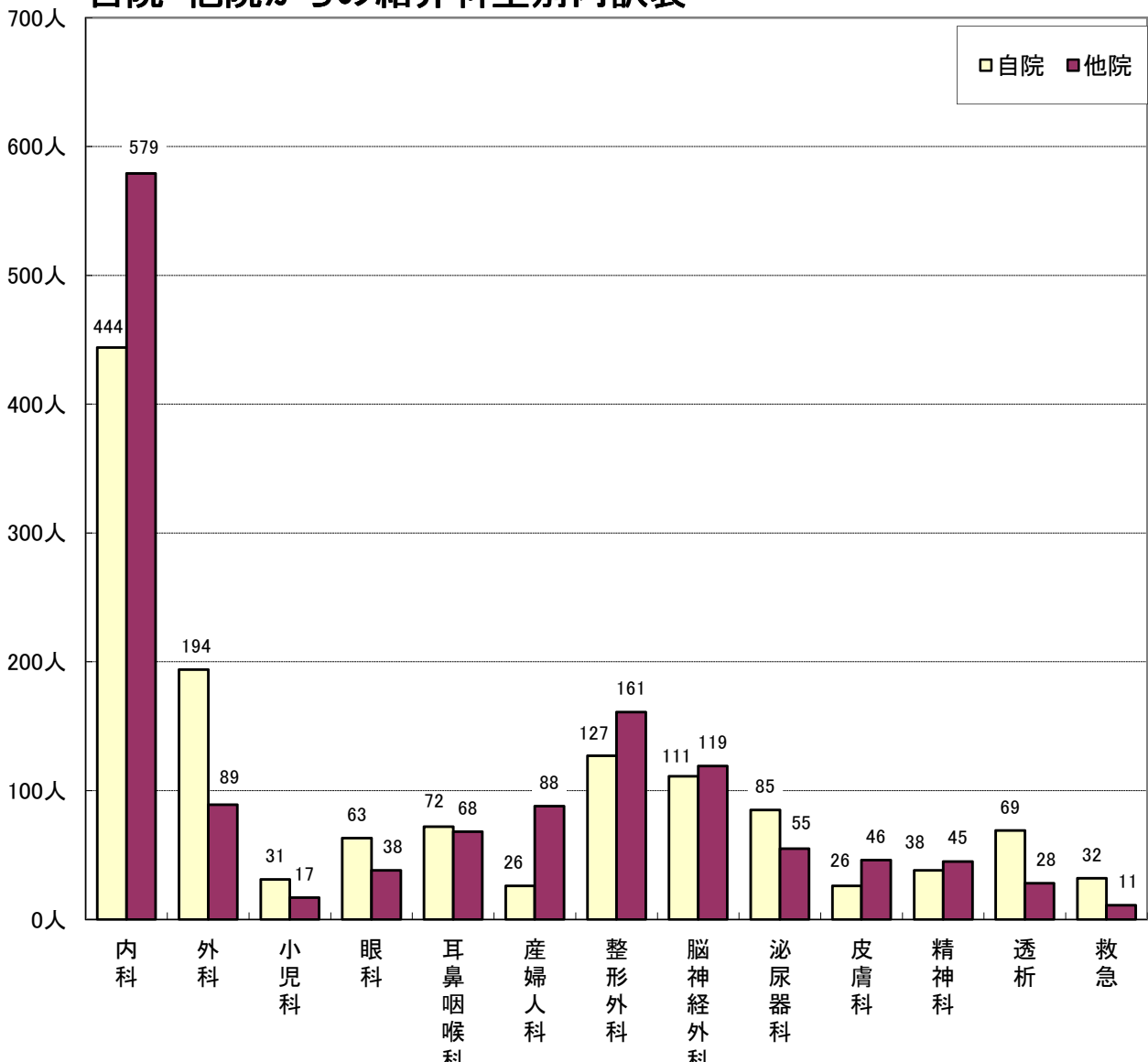
区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	68	49	58	40	38	30	30	28	23	25	26	29	444
外 科	8	8	17	13	25	19	22	20	20	10	11	21	194
小 児 科	5	1	2	5	6	5	1	1	1	0	2	2	31
眼 科	5	10	7	3	8	4	4	5	3	5	2	7	63
耳鼻咽喉科	5	2	4	8	11	3	8	5	5	5	6	10	72
産婦人科	1	1	4	3	2	3	0	1	1	3	2	5	26
整形外科	8	8	7	14	13	16	17	11	12	2	8	11	127
脳神経外科	11	11	13	11	12	9	6	6	5	11	6	10	111
泌尿器科	3	9	6	3	5	9	5	9	11	5	6	14	85
皮膚科	1	2	1	5	5	1	3	0	1	2	3	2	26
精神科	1	1	3	3	4	5	6	2	5	3	4	1	38
透析	5	7	9	6	5	11	1	7	4	3	5	6	69
救 急	2	4	4	3	2	1	2	2	3	2	4	3	32
総 数	123	113	135	117	136	116	105	97	94	76	85	121	1,318
初診患者数	755	842	782	875	971	731	826	763	822	760	689	880	9,696
紹介率	16.3%	13.4%	17.3%	13.4%	14.0%	15.9%	12.7%	12.7%	11.4%	10.0%	12.3%	13.8%	13.6%

(3)他院からの紹介科室別内訳

平成26年度
(単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内 科	33	40	38	34	70	62	66	44	52	53	44	43	579
外 科	6	9	7	4	4	8	12	9	7	3	10	10	89
小 児 科	1	2	2	0	3	0	1	2	2	0	2	2	17
眼 科	3	2	1	1	2	6	3	6	3	3	5	3	38
耳鼻咽喉科	0	8	5	8	6	4	6	9	6	3	4	9	68
産 婦 人 科	11	12	8	7	7	2	7	8	6	5	8	7	88
整 形 外 科	16	14	8	14	17	14	17	13	18	7	13	10	161
脳神経外科	13	12	12	7	11	13	13	6	11	4	4	13	119
泌 尿 器 科	6	2	3	4	5	11	3	1	6	3	8	3	55
皮 膚 科	2	4	7	4	3	5	5	5	6	1	1	3	46
精 神 科	4	1	2	8	1	5	6	5	1	3	3	6	45
透 析	0	2	6	4	5	1	2	4	0	0	2	2	28
救 急	1	0	0	0	0	0	0	2	2	3	3	0	11
総 数	96	108	99	95	134	131	141	114	120	88	107	111	1,344
初診患者数	755	842	782	875	971	731	826	763	822	760	689	880	9,696
紹 介 率	12.7%	12.8%	12.7%	10.9%	13.8%	17.9%	17.1%	14.9%	14.6%	11.6%	15.5%	12.6%	13.9%

自院・他院からの紹介科室別内訳表

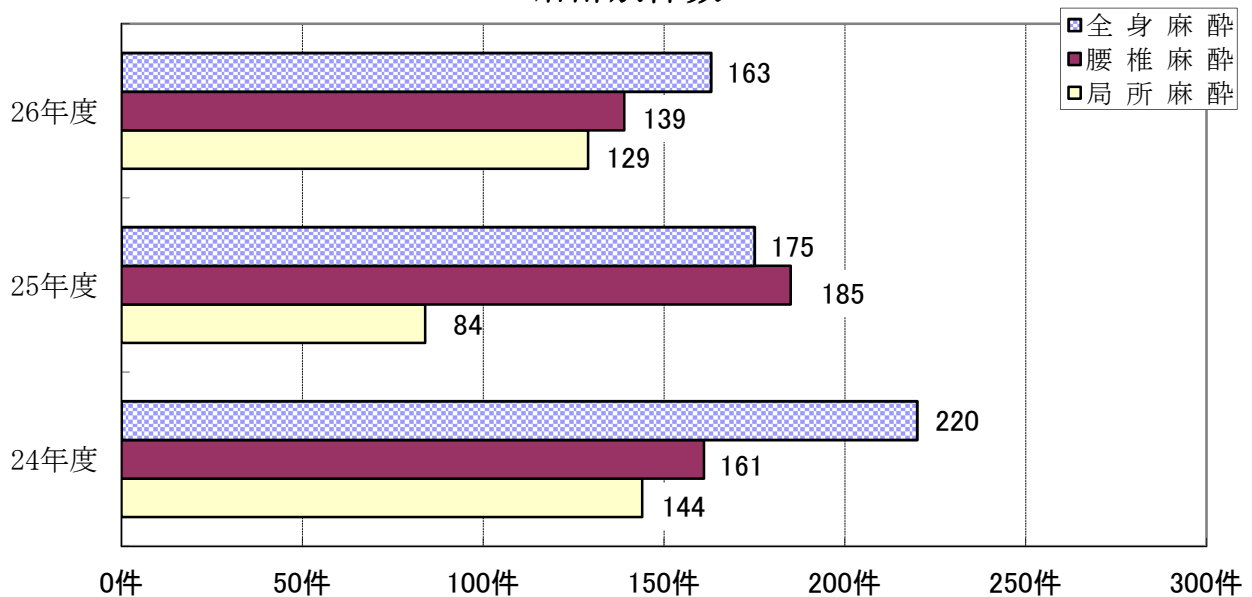


3. 手術の状況

(単位：件)

区 分	24年度	25年度	26年度	
外科	全身麻酔	113	78	100
	腰椎麻酔	34	34	33
	局所麻酔	26	19	37
	小 計	173	131	170
整形外科	全身麻酔	74	69	49
	腰椎麻酔	89	113	75
	局所麻酔	91	54	72
	小 計	254	236	196
脳神経外科	全身麻酔	12	13	4
	腰椎麻酔	3	1	0
	局所麻酔	18	10	14
	小 計	33	24	18
耳鼻咽喉科	全身麻酔	10	3	6
	腰椎麻酔	0	0	0
	局所麻酔	8	5	6
	小 計	18	8	12
産婦人科	全身麻酔	11	12	4
	腰椎麻酔	35	32	31
	局所麻酔	0	0	0
	小 計	46	44	35
内科	局所麻酔	1	1	0
小 計	全身麻酔	220	175	163
	腰椎麻酔	161	185	139
	局所麻酔	144	84	129
合 計	525	444	431	

麻酔別件数



4. 在宅医療及び介護認定の状況

(1) 訪問診察・往診件数 (単位：件)

区 分		24年度	25年度	26年度
利用者数	男 性	282	281	222
	女 性	234	213	165
	合 計	516	494	387
延べ訪問件数		516	494	387
請求内容	介護保険	443	393	319
	医療保険	73	101	68

(2) 科別利用者及び経管栄養・経口者件数

平成26年度	人数	経鼻	胃瘻	経口
総利用者数	428	57	192	179
脳外科患者数	135	32	93	10
内科患者数	273	25	99	149
他科患者数	20	0	0	20

(単位：人・件)

(3) 訪問看護件数 (単位：件)

区 分		24年度	25年度	26年度
利用者数	男 性	270	253	237
	女 性	234	196	182
	合 計	504	449	419
新 規	男 性	16	20	11
	女 性	16	17	8
	合 計	32	37	19
終 了	死亡(自宅)	20	17	6
	死亡(病院)	11	9	15
	その他	1	1	0
	合 計	32	27	21
述べ訪問件数		3,508	3,135	2,944
請求内容	介護保険	2,789	2,278	2,117
	医療保険	719	857	827

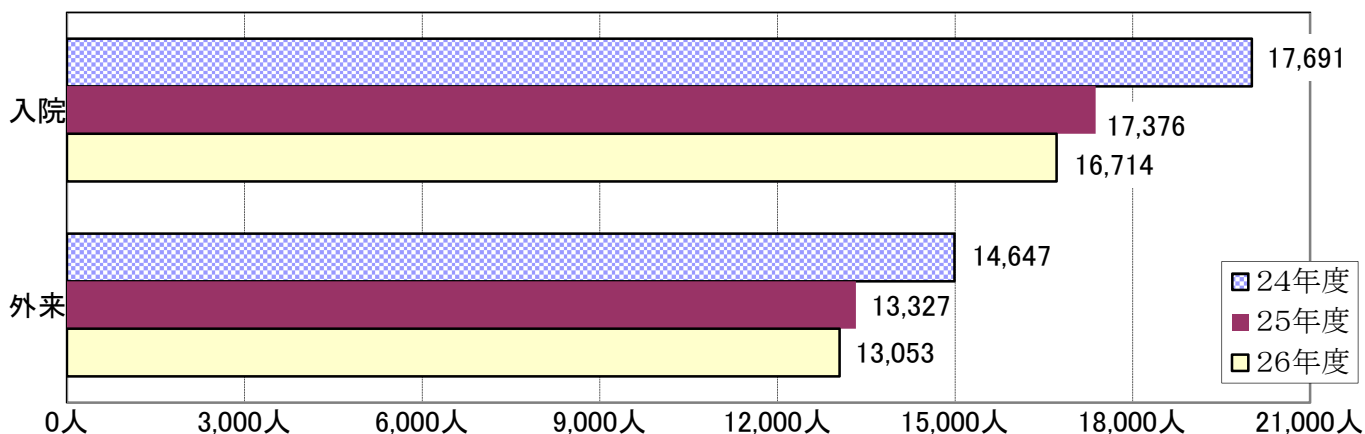
(4) 主治医意見書作成件数 (単位：件)

区 分	24年度	25年度	26年度
内 科	346	282	285
外 科	51	24	34
整 形 外 科	137	133	143
脳 神 経 外 科	198	158	178
精 神 科	94	100	104
眼 科	1	2	3
泌 尿 器 科	0	1	0
皮 膚 科	1	1	1
耳 鼻 咽 喉 科	1	2	2
産 婦 人 科	0	1	1
合 計	829	704	751

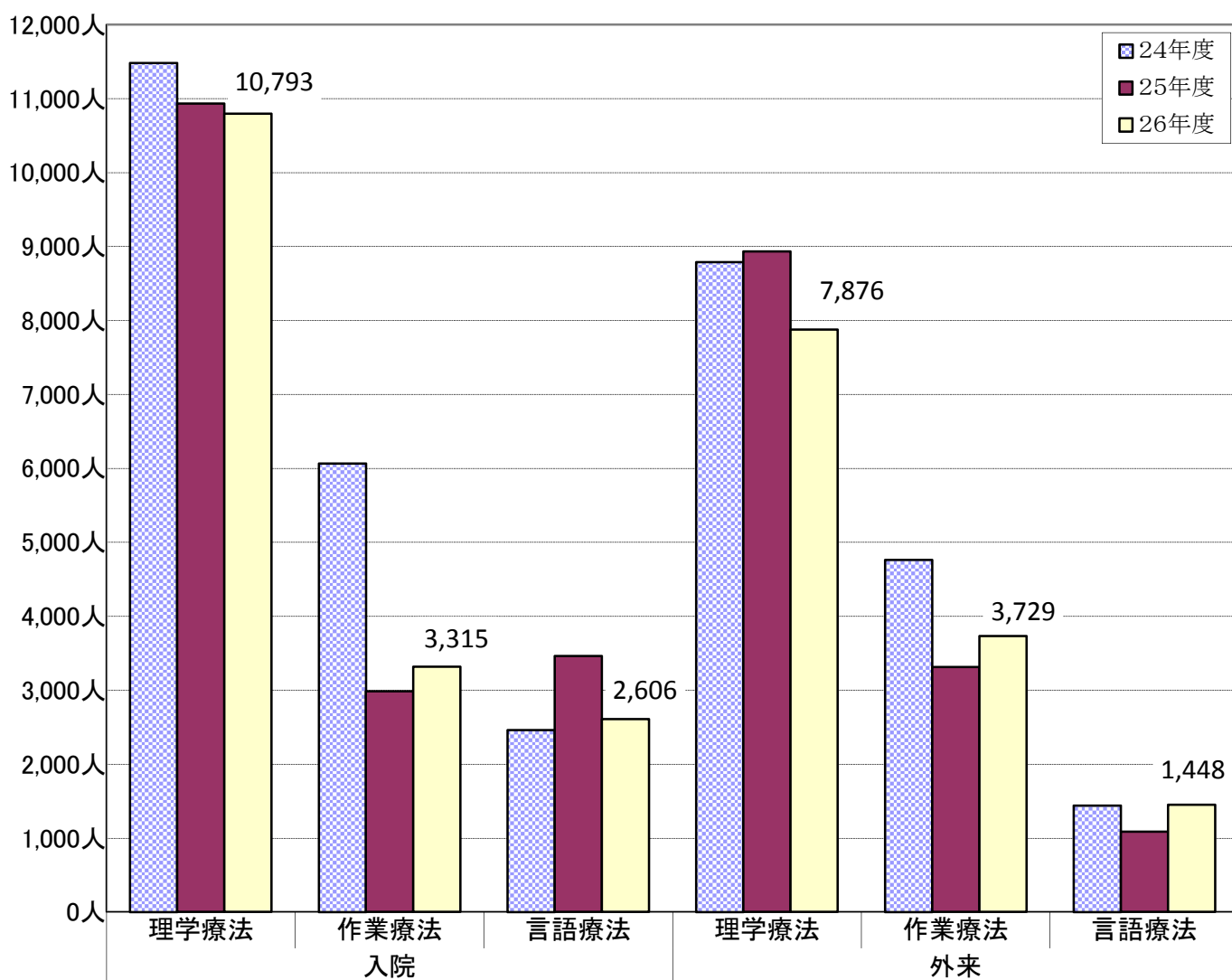
(5) 訪問リハビリ件数 (単位：件)

区 分		24年度	25年度	26年度
利用者数	男 性	55	57	61
	女 性	7	5	1
	合 計	62	62	62
延べ訪問件数		204	218	204
請求内容	介護保険	162	169	204
	医療保険	42	49	0

過去3年間のリハビリ患者数 入院外来別総数



過去3年間のリハビリ患者数 入院外来別部門別数

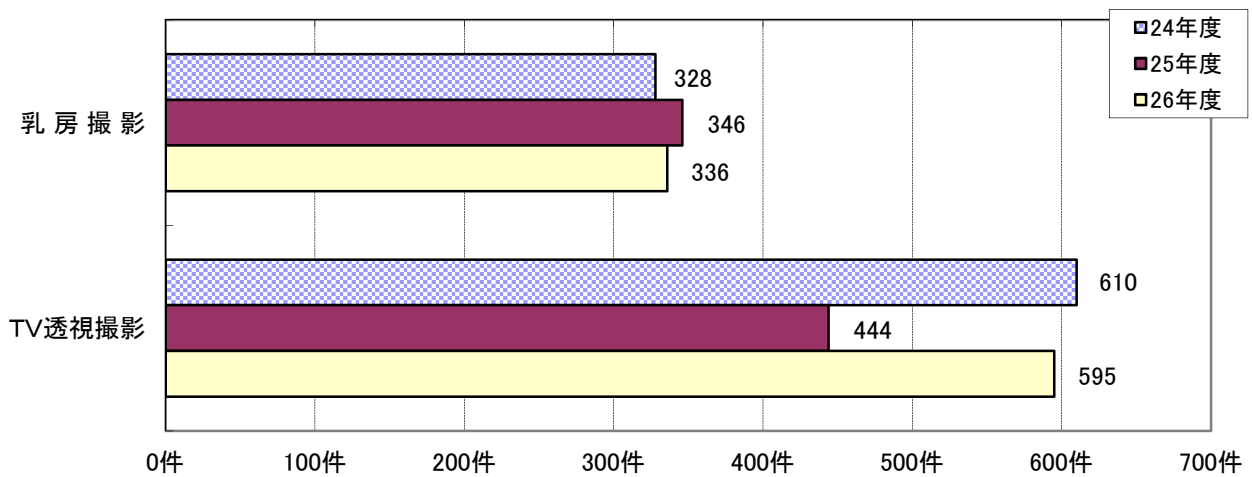
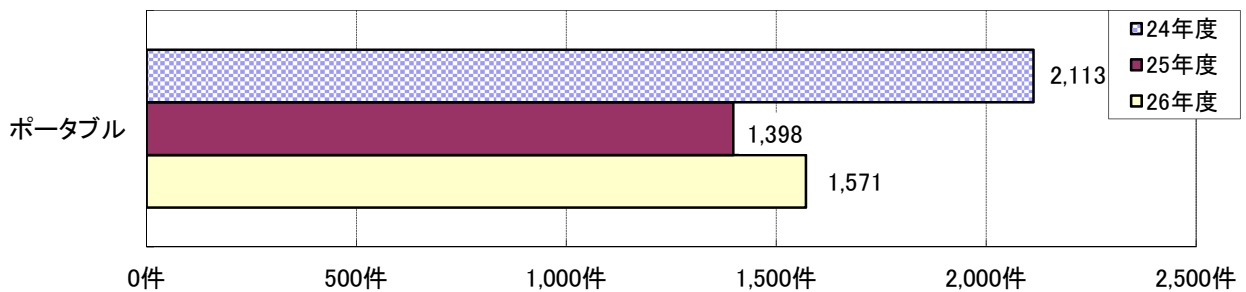
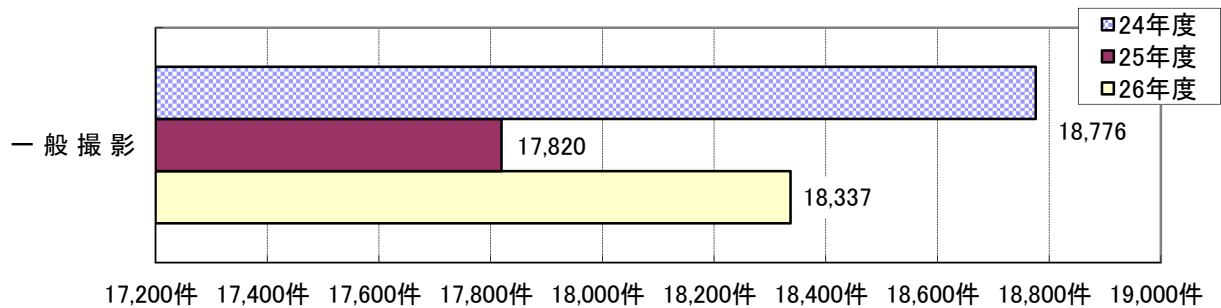


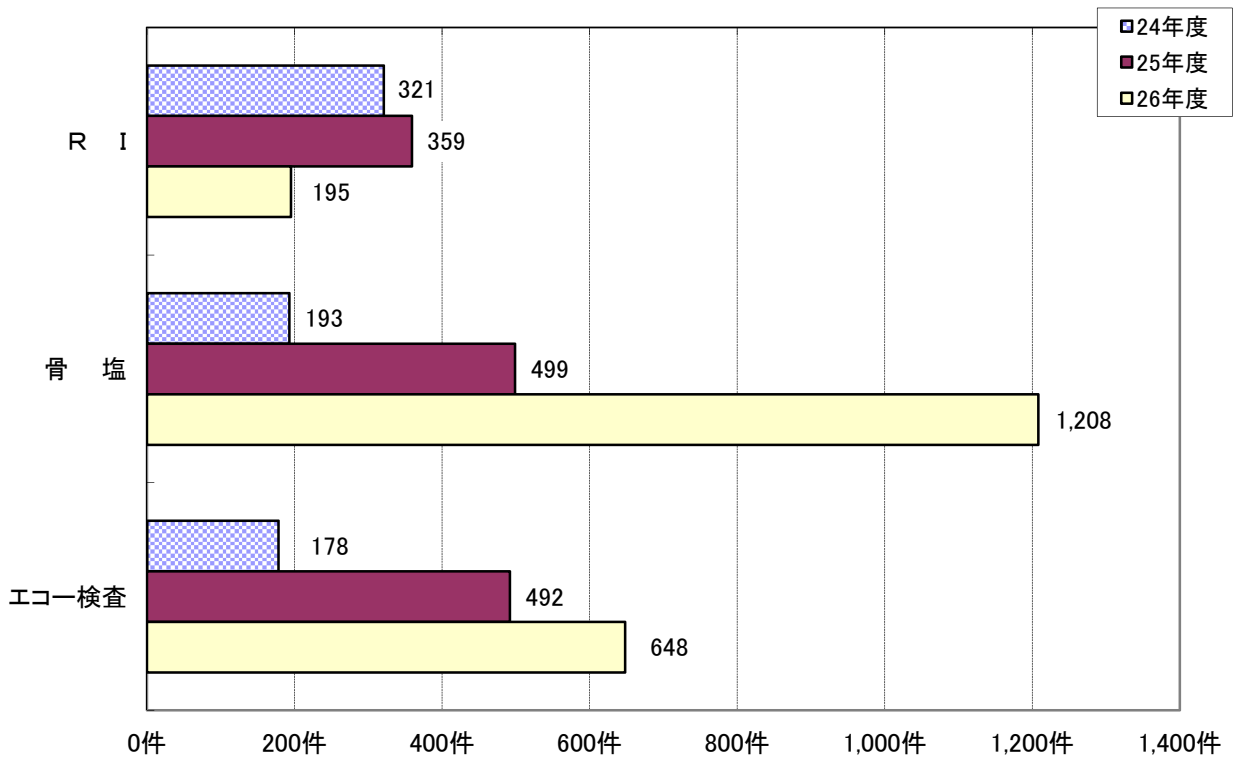
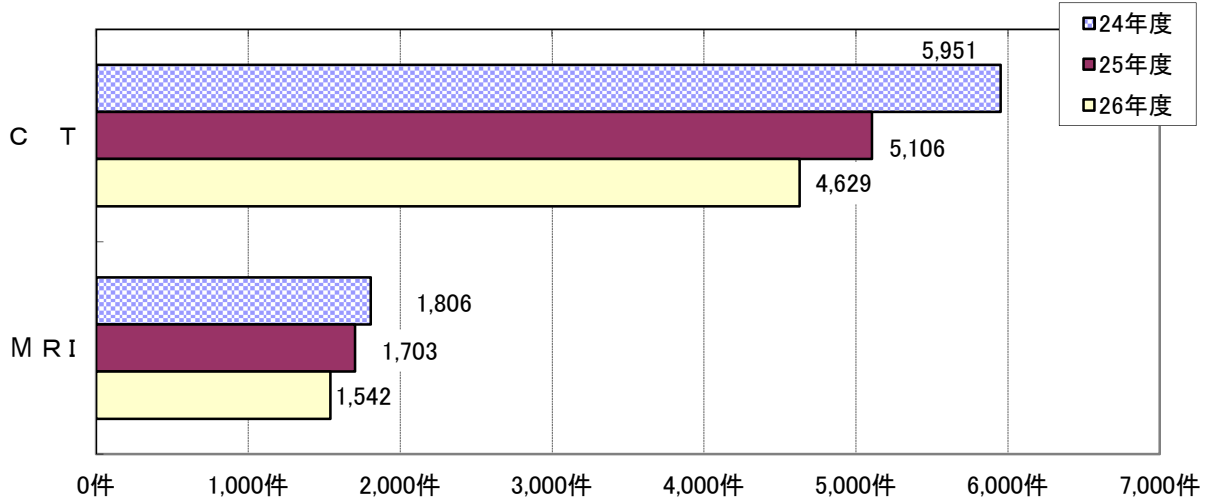
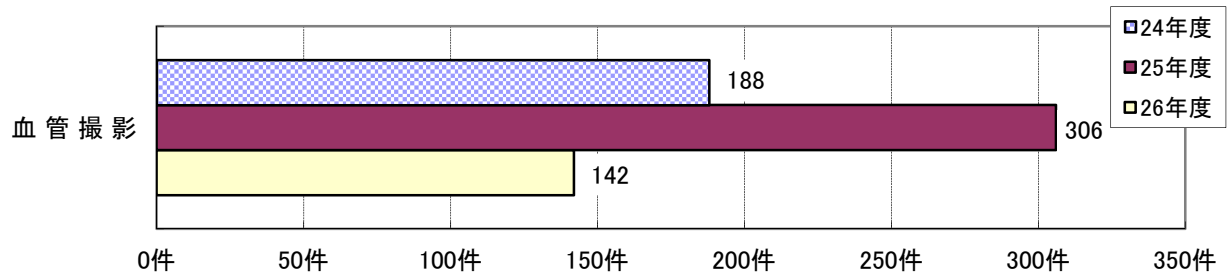
6. 放射線の状況

(1) 撮影件数

(単位：件)

区分	24年度	25年度	26年度
一般撮影	18,776	17,820	18,337
ポータブル	2,113	1,398	1,571
乳房撮影	328	346	336
TV透視撮影	610	444	595
血管撮影	188	306	142
C T	5,951	5,106	4,629
M R I	1,806	1,703	1,542
R I	321	359	195
骨塩	193	499	1,208
エコー検査	178	492	648
合計	30,464	28,473	29,203





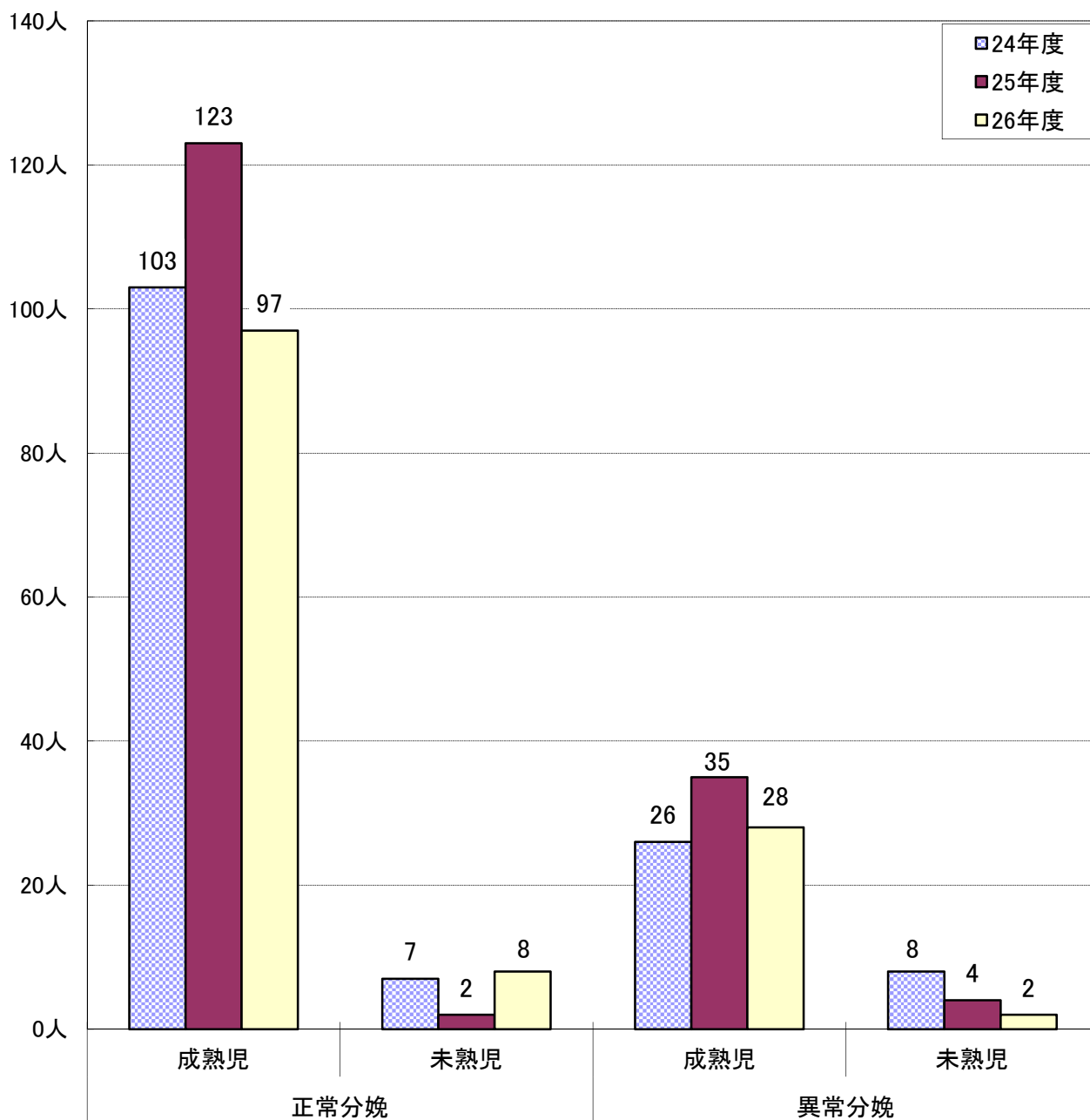
7. 分娩の状況

(1) 分娩の状況

(単位：人)

区分		24年度	25年度	26年度
正常分娩	成熟児	103	123	97
	未熟児	7	2	8
異常分娩	成熟児	26	35	28
	未熟児	8	4	2
合計		144	164	135

分娩状況表



(2)分娩集計

平成26年集計

①分娩について(※死産は含まない)

項目	件数
1) 母体搬送を受けた症例	0 例
2) 母体平均年齢	30.3 才
3) 若年齢出産数(20歳未満)	2 人
4) 高年齢出産数(35歳以上)	22 人
(40歳以上)	1 人

項目	件数	比率
(1) 全分娩数	145	
分娩総数	145	100.0%
単胎	141	97.2%
多胎(双胎以上)	2	1.4%
(2) 分娩様式		
経膈分娩数	115	79.3%
全帝王切開数	30	20.7%
うち緊急帝王切開数	11	7.6%
(3) 医療行為を行った数		
1) 吸引分娩	11	7.6%
2) 鉗子分娩	0	0.0%
3) 会陰切開	0	0.0%
4) 会陰裂傷(3,4度)	0	0.0%
5) 陣痛誘発促進剤	8	5.5%
6) 全硬膜外麻酔	0	0.0%
医学的適応		
7) 希望による無痛分娩	0	

②分娩後の入院期間(小数点1桁)

項目	平均入院日数	
経膈分娩	初産	6.1日
	経産	5.8日
帝王切開	6.7日	

※出産当日を1日目とする

③新生児の状況

項目	人数	比率
新生児 総数	145	
在胎週数		
42週以上	0	0.0%
37～41週	140	96.6%
36～28週	5	3.4%
28週未満	0	0.0%
不明	0	0.0%
出生体重		
4,000g以上	2	1.4%
2,500g～3,999g	133	91.7%
1,500g～2,499g	8	5.5%
1,499g以下	0	0.0%
不明	2	1.4%

項目	人数
新生児搬送した症例	0 人
新生児高ビリルビン血症	
母子同室での治療	35 人
母子分離での治療	0 人

項目	人数	比率
母子同室 総数	145	100.0%
健常新生児	130	89.7%
健常新生児以外	15	10.3%
母子異室 NICU入院など	0	0

健常新生児以外の母子同室症例及び症例数

症例	症例数
低出生体重児	8
巨大児	2
低血糖	2
母体薬剤投与	0
その他	0

④母子同室児(健常新生児)の栄養法について

(在胎37週以上42週未満、出生体重2,500g以上4,000g未満)

1)入院中の栄養法

項目	人数	比率
対象新生児数	130	
母乳のみ	108	83.1%
糖水のみ補足	0	0.0%
人工乳のみ補足	22	16.9%
糖水+人工乳補足	0	0.0%
人工乳のみ	0	0.0%

2)退院時の栄養法

項目	人数	比率
対象新生児数	130	
母乳のみ	120	92.3%
糖水のみ補足	0	0.0%
人工乳のみ補足	10	7.7%
糖水+人工乳補足	0	0.0%
人工乳のみ	0	0.0%

3)入院中の体重

	経膈分娩	帝王切開
新生児数	105	25
最低体重日令	2.7	3.5
最低体重(%)	-8.0	-10.4
退院時体重(%)	-3.4	-6.6

4)対象(健常新生児)例の退院後の栄養法

	2週間健診		1カ月健診	
	人数	比率	人数	比率
受診数	130	100.0%	121	93.1%
平均日令				
母乳のみ	118	90.8%	106	87.6%
混合総数	12	9.2%	15	12.4%
混合(母乳>人工乳)	10	7.7%	12	9.9%
混合(母乳<人工乳)	2	1.5%	5	4.1%
人工乳のみ	0	0.0%	0	0.0%

⑤母子同室(健常新生児以外)の新生児の栄養法について

(2,500g未満などで母子同室を行った例)

1)入院中の栄養法

	人数	比率
対象新生児数	14	
母乳のみ	8	57.1%
糖水のみ補足	0	0.0%
人工乳のみ補足	6	42.9%
糖水+人工乳補足	0	0.0%
人工乳のみ	0	0.0%

2)退院時の栄養法

	人数	比率
対象新生児数	14	
母乳のみ	11	78.6%
糖水のみ補足	0	0.0%
人工乳のみ補足	3	21.4%
糖水+人工乳補足	0	0.0%
人工乳のみ	0	0.0%

3)対象例の入院中の体重減少率

	経膈分娩	帝王切開
新生児数	12	2
最低体重日令	3.3	3.5
最低体重(%)	-7.8	-10.6
退院時体重(%)	-2.6	1.0

4)対象(母子同室)例の退院後の栄養法

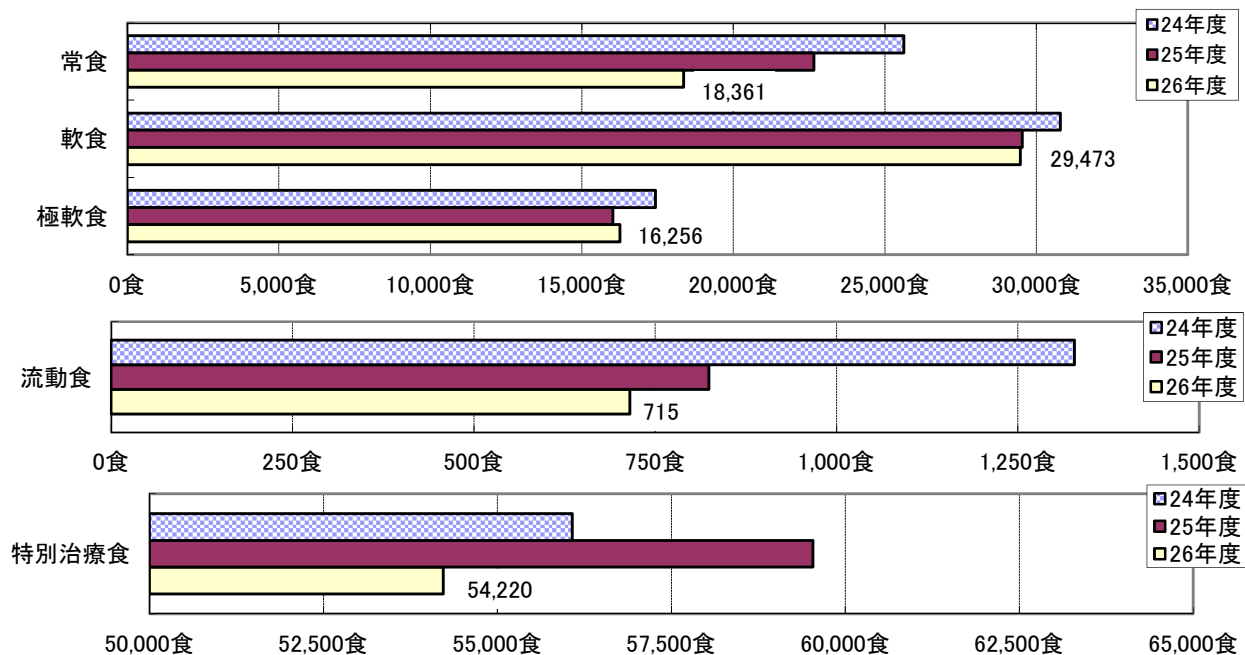
	2週間健診		1カ月健診	
	人数	比率	人数	比率
受診数	11	78.6%	12	85.7%
平均日令				
母乳のみ	9	81.8%	10	83.3%
混合総数	2	18.2%	2	16.7%
混合(母乳>人工乳)	0	0.0%	0	0.0%
混合(母乳<人工乳)	0	0.0%	0	0.0%
人工乳のみ	0	0.0%	0	0.0%

8. 給食及び栄養指導の状況

(1) 患者給食数

(単位：食)

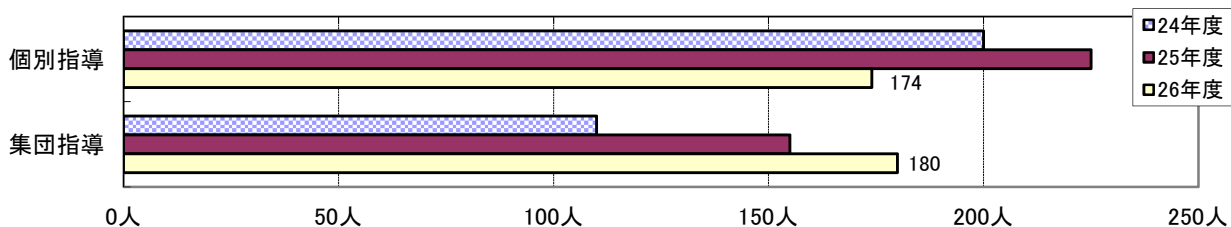
区分	24年度	25年度	26年度
常食	25,624	22,655	18,361
軟食	30,790	29,536	29,473
極軟食	17,435	16,022	16,256
流動食	1,328	824	715
特別治療食	56,075	59,534	54,220
合計	131,252	128,571	119,025



(2) 栄養指導数

(単位：人)

区分	24年度	25年度	26年度
個別指導	200	225	174
集団指導	110	155	180
合計	310	380	354



(3) 平均残食率

(単位：kg)

区分	24年度	25年度	26年度
朝食	6.5	8.3	9.1
昼食	7.8	10.3	11.4
夕食	6.2	8.3	9.8

9. 医療相談の状況

(1) 医療相談の状況

(単位:件)

区分	24年度	25年度	26年度
面接	1,939	1,932	1,512
電話	3,427	3,395	3,209
訪問	77	76	63
文書	784	568	473
協議	871	797	441
合計	7,098	6,768	5,698

(2) 医療相談状況内容

平成26年度

科別相談件数

(単位:件)

内科	外科	小児科	眼科	耳鼻咽喉科	整形外科
893	419	4	2	46	824
産婦人科	脳神経外科	泌尿器科	皮膚科	精神科	透析
10	716	8	4	203	56

相談内容集計

(単位:件)

No.	内容	件数	No.	内容	件数
1	医療費	98	10	院内関係	68
2	生活費等	36	11	院外関係	1,017
3	身体障害者手帳等	144	12	心理社会	46
4	障害年金相談等	84	13	理解促進	304
5	介護保険制度等	624	14	情報交換	1,251
6	受診・入院相談	221	15	退院後方針	799
7	療養中	1,165	16	住居相談	210
8	在宅ケア	977	17	その他	106
9	家族関係	609			

退院支援

(単位:件)

介護	障害	利用無し	死亡	合計
147	3	15	17	182

退院支援連携カンファレンス

年間 48 件

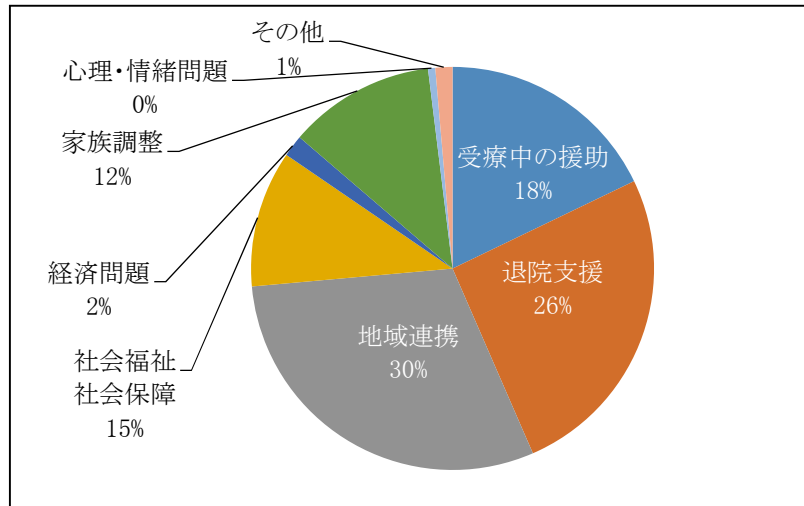
退院先

(単位:件)

在宅	療養	老保	老福	GH	障害	養護	医療保	その他	合計
127	16	16	2	4	1	1	10	10	187

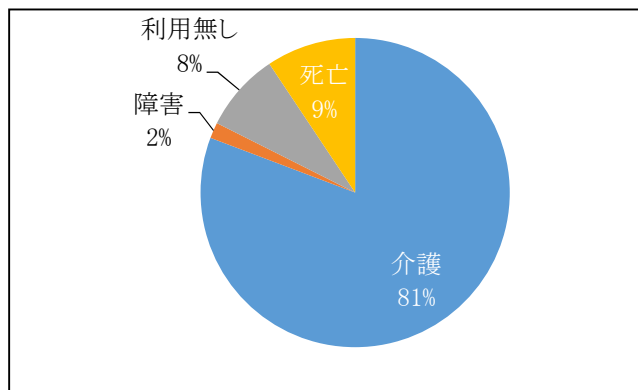
相談内容集計表

相談内容集計	件数
受療中の援助	1,386
退院支援	1,986
地域連携	2,336
社会福祉社会保障	852
経済問題	134
家族調整	913
心理・情緒問題	46
その他	106
合計	7,759



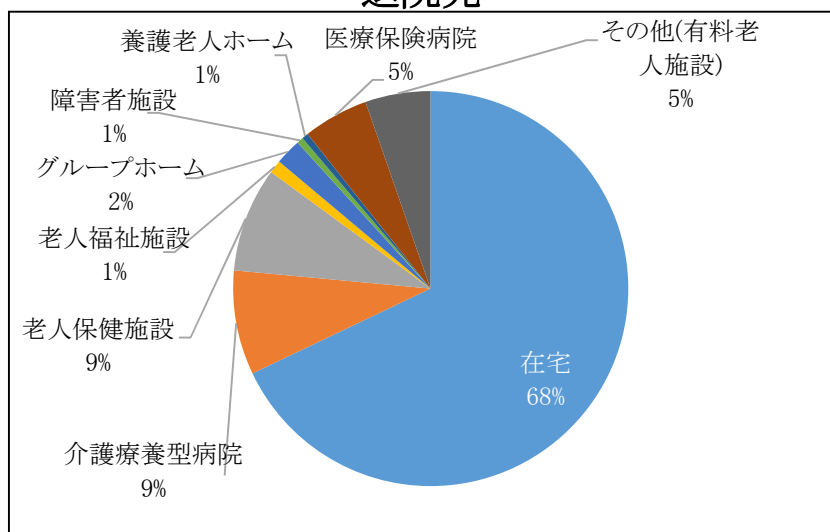
退院支援

退院支援	件数
介護	147
障害	3
利用無し	15
死亡	17
合計	182



退院先

退院先	件数
在宅	127
介護療養型病院	16
老人保健施設	16
老人福祉施設	2
グループホーム	4
障害者施設	1
養護老人ホーム	1
医療保険病院	10
その他(有料老人施設)	10
合計	187

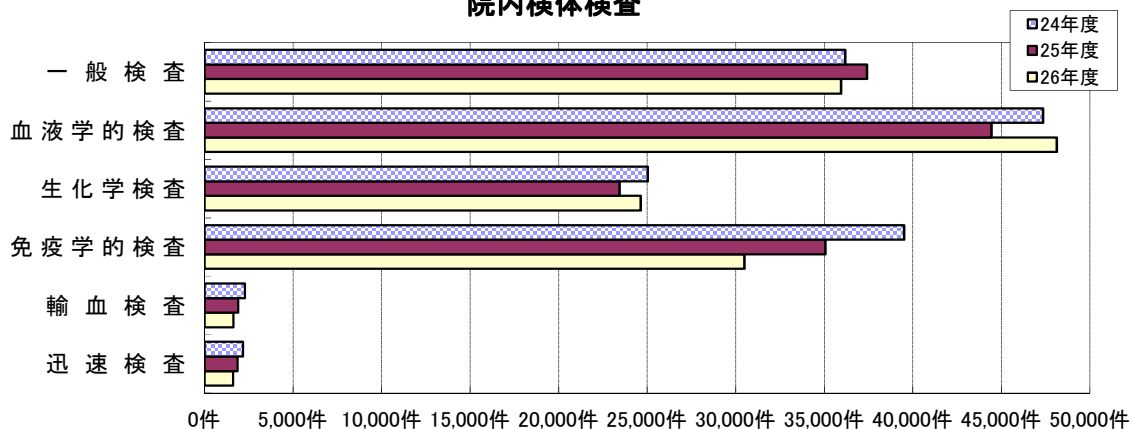


10. 臨床検査の状況

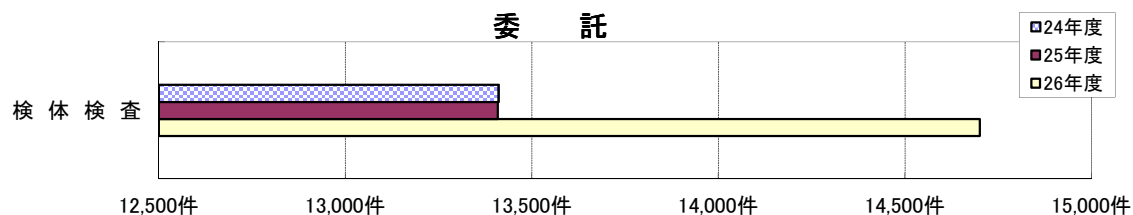
(単位：件)

区 分		24年度	25年度	26年度
院内検体検査	一般検査	36,177	37,401	35,954
	血液学的検査	47,345	44,441	48,119
	生化学検査	25,024	23,438	24,634
	免疫学的検査	39,497	35,058	30,480
	輸血検査	2,277	1,900	1,625
	迅速検査	2,176	1,859	1,615
	総数	152,496	144,097	142,427
委託	検体検査	13,411	13,409	14,701
生理学的検査	心電図(負荷含む)	5,154	4,413	4,324
	ホルター心電図	209	126	46
	呼吸機能検査	416	415	456
	NCV、ABR等	41	45	48
	脳波	41	34	15
	ABI/PWV	1,081	826	597
	24時間血圧測定		9	1
	睡眠ポリグラフィー		24	12
	ガス分析	704	583	661
	頰動脈エコー	74	96	70
	心エコー	698	733	474
	下肢エコー	70	71	60
	シャントエコー	24	149	147
	その他エコー		28	66
	総数	8,512	7,552	6,977
微生物学的検査	一般菌塗沫鏡検	1,442	1,627	1,613
	一般菌培養検査	2,887	2,765	2,698
	結核菌塗沫鏡検	483	294	395
	結核菌培養検査	467	239	396
	薬剤感受性試験	1,976	2,469	2,595
	細胞診(標本作成)	399	221	272
	総数	7,654	7,615	7,969
合計		182,073	172,673	172,074

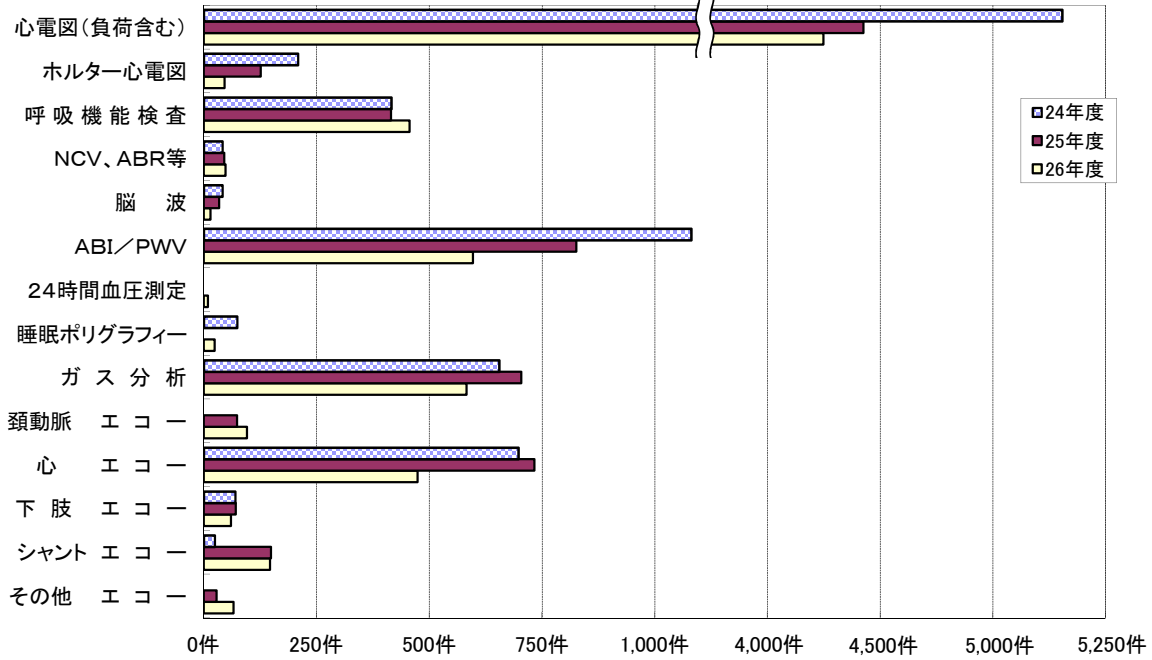
院内検体検査



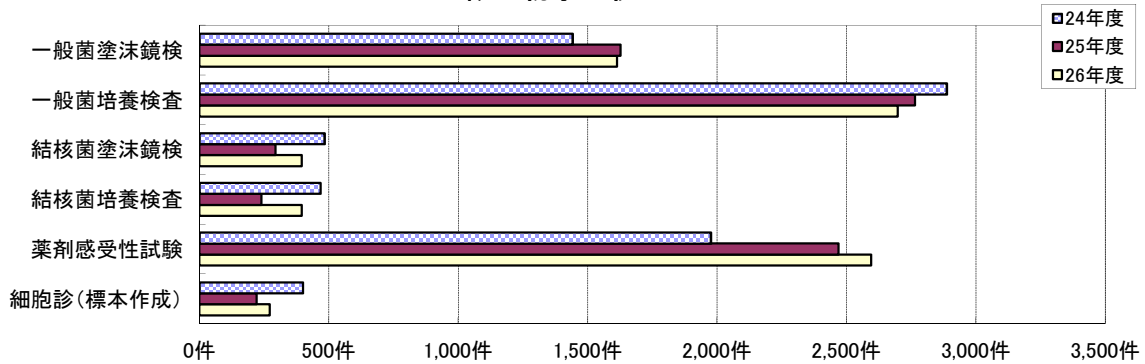
委 託



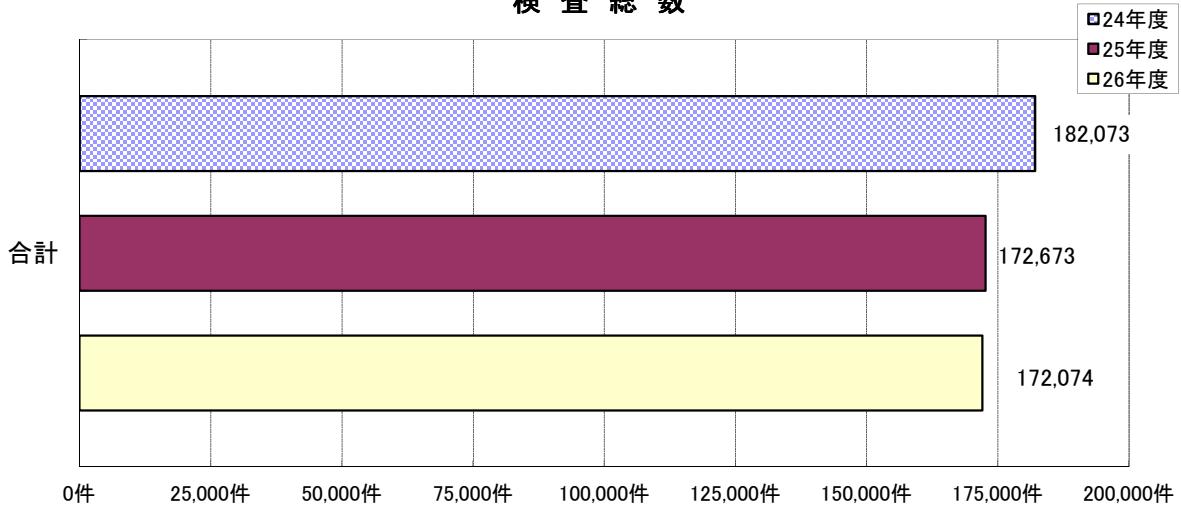
生理学的検査



微生物学的検査



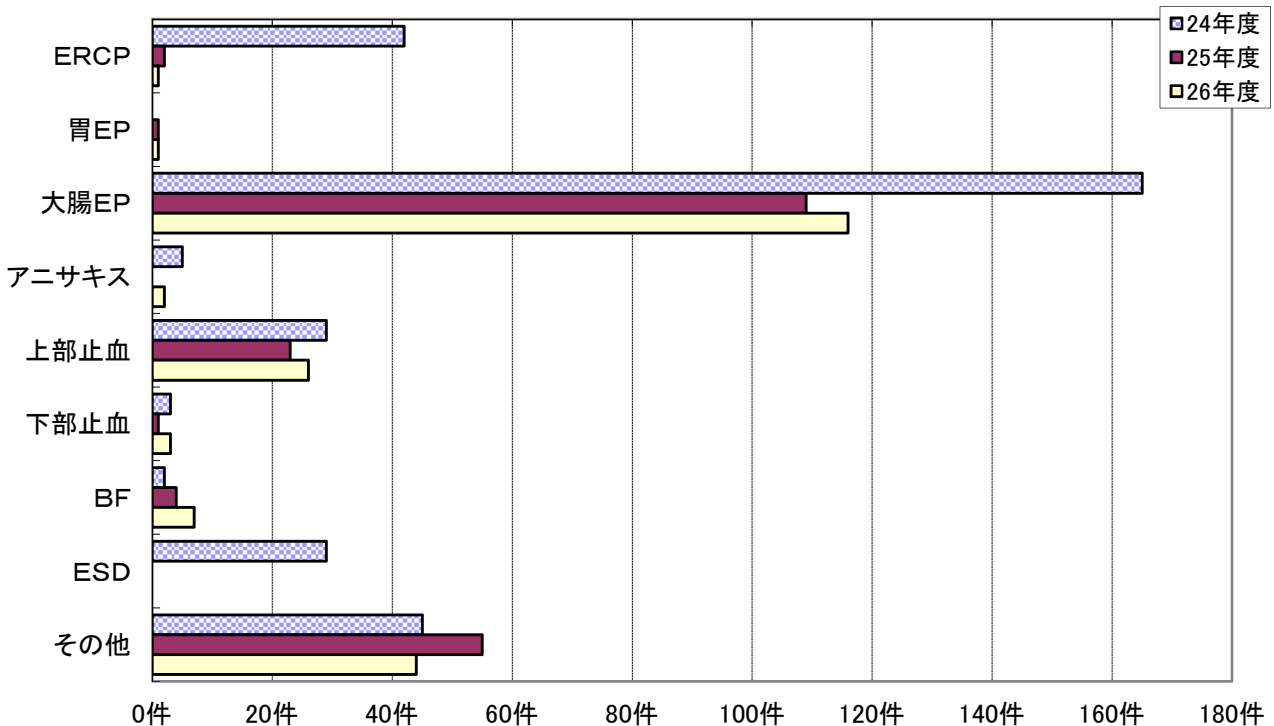
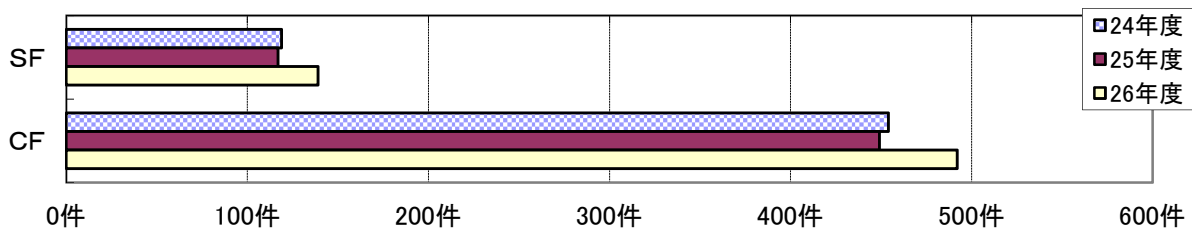
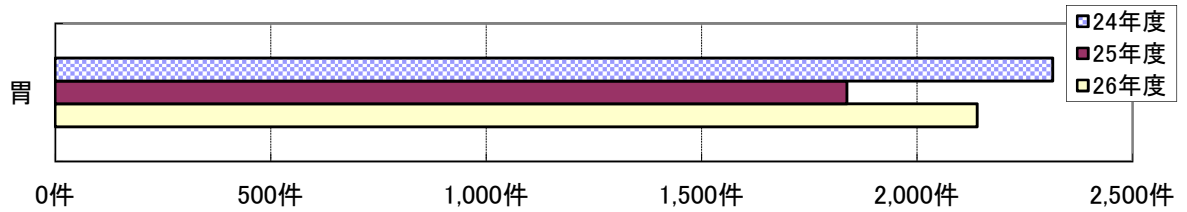
検査総数



1 1. 内視鏡検査の状況

(単位：件)

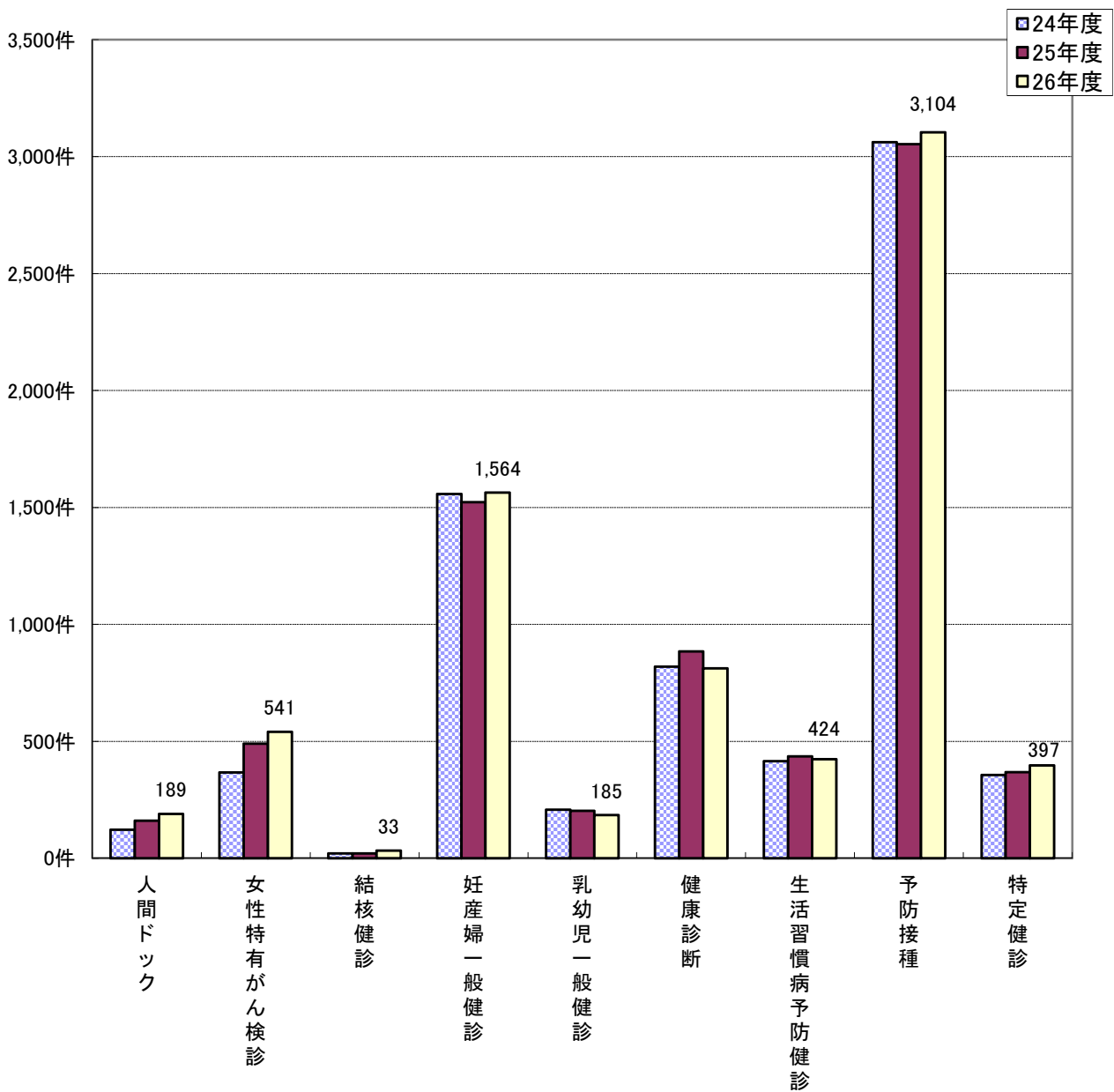
区 分	24年度	25年度	26年度
胃	2,315	1,837	2,139
S F	119	117	139
C F	454	449	492
E R C P	42	2	1
胃 E P	0	1	1
大 腸 E P	165	109	116
ア ニ サ キ ス	5	0	2
上 部 止 血	29	23	26
下 部 止 血	3	1	3
B F	2	4	7
E S D	29	0	0
そ の 他	45	55	44
合 計	3,208	2,598	2,970



1 2. 健診及び人間ドックの状況

(単位：件)

区 分	24年度	25年度	26年度
人 間 ド ッ ク	122	161	189
女性特有がん検診	367	490	541
結 核 健 診	21	21	33
妊 産 婦 一 般 健 診	1,557	1,523	1,564
乳 幼 児 一 般 健 診	208	203	185
健 康 診 断	819	884	812
生活習慣病予防健診	415	436	424
予 防 接 種	3,062	3,053	3,104
特 定 健 診	356	368	397

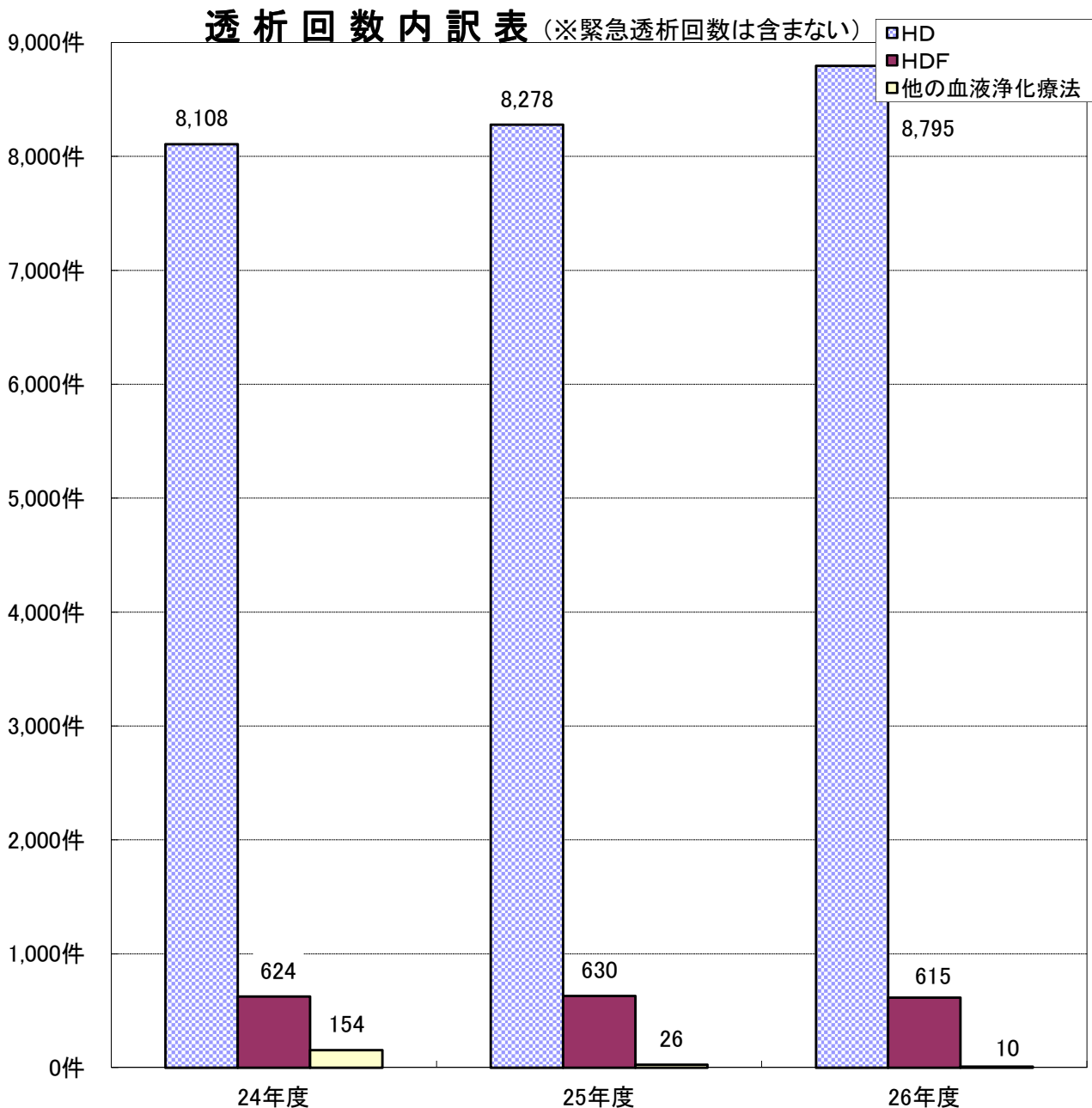


13. 人工透析の状況

(単位：件)

区分	24年度	25年度	26年度
透析患者数	707	714	752
院外透析患者数	10	5	7
透析導入患者数	3	12	8
死亡患者数（離脱・転院）	5	4	5
透析回数	8,900	8,953	9,410
H D	8,108	8,278	8,795
H D F	624	630	615
他の血液浄化療法	154	26	10
緊急透析回数	14	13	13

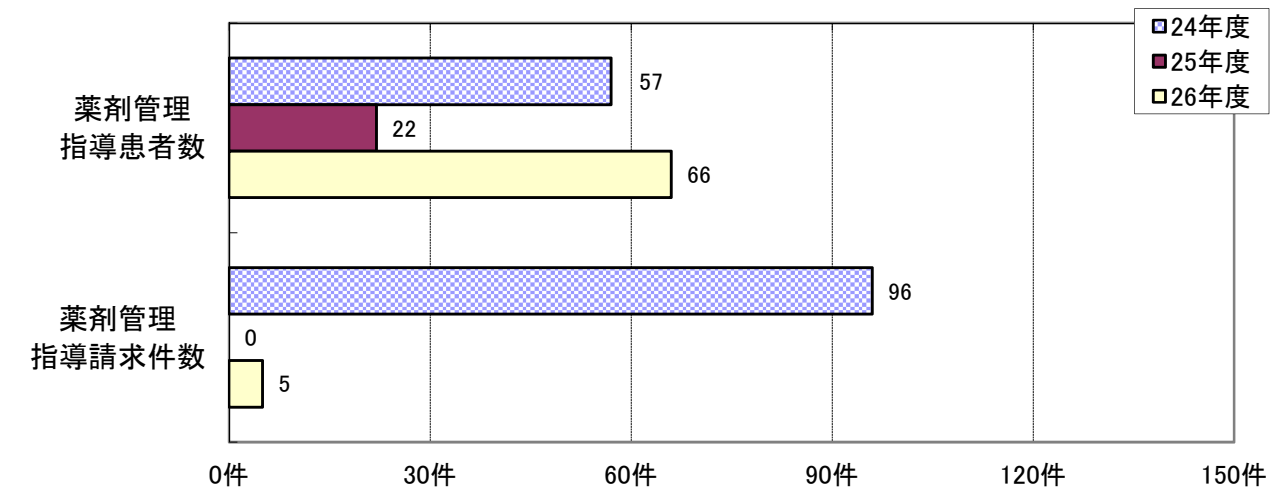
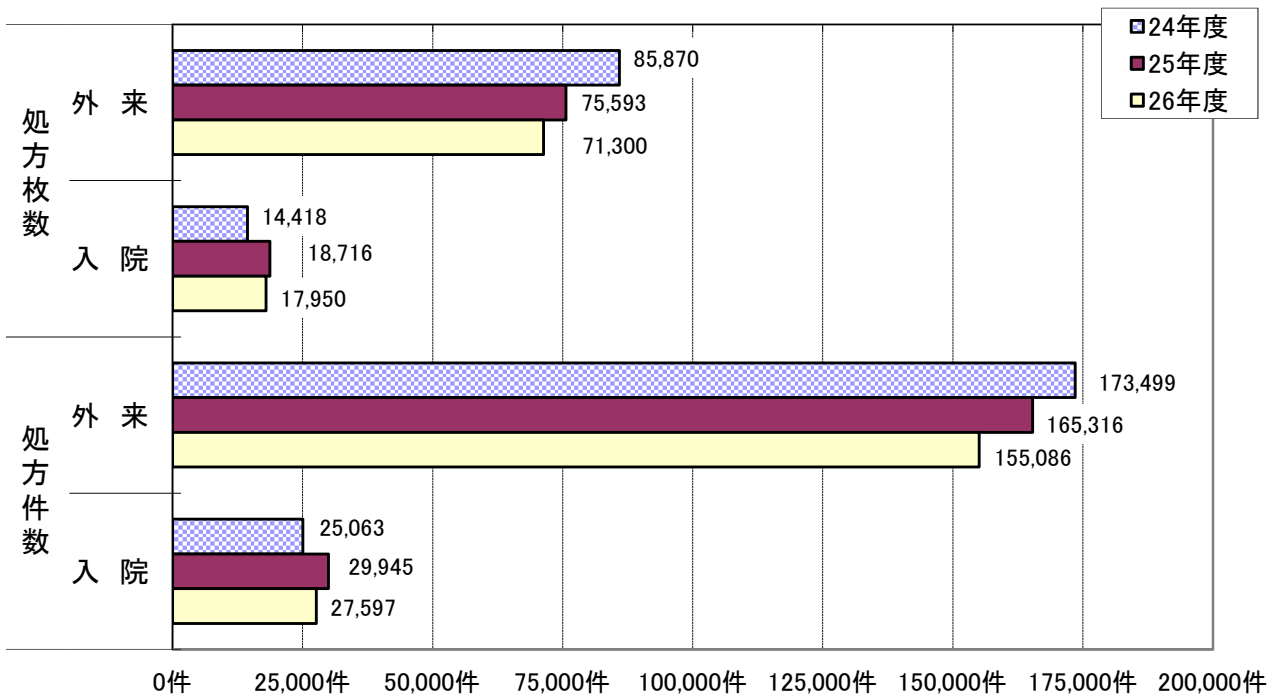
注：()内数字は外数を示したものの

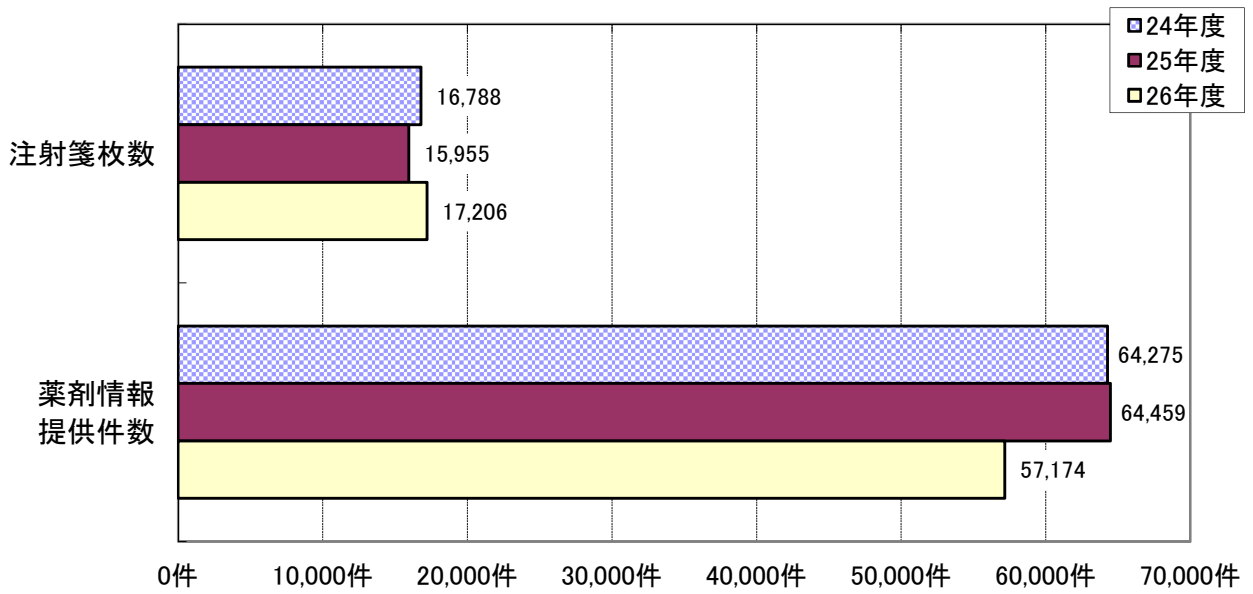


1 4 . 薬剤部の状況

(単位：件)

区 分		24年度	25年度	26年度
処方枚数	外来	85,870	75,593	71,300
	入院	14,418	18,716	17,950
処方件数	外来	173,499	165,316	155,086
	入院	25,063	29,945	27,597
薬剤管理指導患者数		57	22	66
薬剤管理指導請求件数		96	0	5
注射箋枚数		16,788	15,955	17,206
薬剤情報提供件数		64,275	64,459	57,174

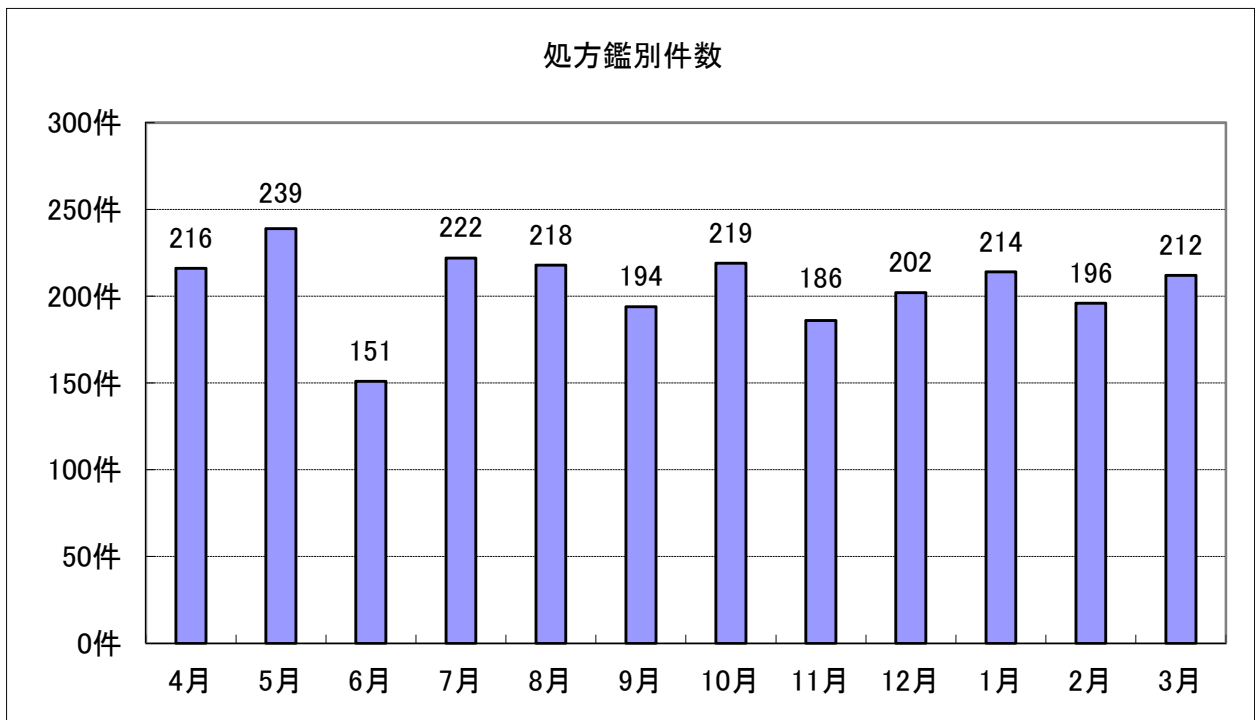




処方鑑別件数

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方鑑別件数	216	239	151	222	218	194	219	186	202	214	196	212



平成26年度

研究発表

珠洲市総合病院

○第22回石川県看護学会

『在宅介護における家族介護者の車椅子移乗介助状況の実態』

発表者:山下 江美子

発表日:平成26年10月25日

場 所:石川県地場産業振興センター(金沢市)

○第9回中能登看護研究会

『当院における専門・認定看護師の資格取得に関する意識調査』

発表者:桶谷 美恵子

発表日:平成27年3月21日

場 所:七尾美術館 アートホール(七尾市)

在宅介護における家族介護者の車椅子移乗介助状況の実態
ー外来看護師として出来る支援の検討ー

○山下江美子 松鶴浩美 中尾美穂子

はじめに

本院の所在する A 市は県庁所在地から最も離れた地域に位置し、地域医療の中核的役割を担っている。2013 年の高齢化率は 44.3%と県内で最も高く、外来受診者のうち高齢者は 67.7%であり、車椅子乗車の要介護者が外来受診する場面では、家族介護者から車椅子移乗介助する時に膝痛や腰痛などの苦痛の訴えが聞かれる。

一原らは「要介護高齢者の身体移動を要する介助内容は、家族介護者における介護負担感に影響を及ぼす一因である」¹⁾と示唆しており、家族介護者にとって車椅子移乗介助は介護負担があると考えられる。家族介護者に介護指導を行うことは、要介護者の在宅生活を継続するうえで重要であり、家族介護者の介護負担の軽減や QOL にも配慮した支援が必要である。

そこで今回、家族介護者の車椅子移乗介助状況を知り、在宅介護を継続維持している要因を明らかにし、外来看護師として出来る支援の検討をしたのでここに報告する。

I 研究目的

家族介護者の車椅子移乗介助状況を知り、在宅介護を継続維持している要因を明らかにし、外来看護師として出来る支援を検討する。

II 用語の定義

家族介護者：65 歳以上で要介護者を在宅介護している介護者

要介護者：65 歳以上で車椅子移乗介助を要する高齢者で、寝たきりは除く者

副介護者：在宅介護を手伝ってくれる人

III 研究方法

- 1 対象：移送サービスを利用し外来通院している要介護者の家族介護者 2 名
- 2 研究デザイン：質的記述的研究
- 3 データ収集期間：2013 年 10 月 1 日～31 日
- 4 データ収集方法：要介護者の外来受診に同行している家族介護者に半構成面接法による面接を個別にインタビューガイドに従い実施した。インタビュー内容は対象者の了解を得た上で録音し、逐語録を作成しデータとした。

- 5 データ分析方法：本研究は質的統合法（KJ法）を用いて総合分析を行った。生データを1つの意味を持つまとまりごとに単位化して元ラベルを作り、順不同に広げ、内容の類似性に着目し2～4枚集めてグループ編成を行う。集まった元ラベルの全体の意味を掴み、1文で表現して新たなラベルを作る。最終ラベルが7枚になるまでグループ編成を繰り返し、最終ラベルを構成するラベルに〈〉をつけ最終ラベルの内容を象徴的に表すシンボルマーク【】をつける。シンボルマークは【事柄：エッセンス】の二重構造で表現する。分析の妥当性・信頼性を高めるため、研究者全員で分析が一致するまで検討し、質的研究者にスーパーバイズを受けた。

IV 倫理的配慮

本研究は論理委員会の承認を受け実施。対象者には、研究の趣旨を口頭と文書で説明し、インタビュー時は録音すること、データは個人が特定されないように配慮すること、学会などで発表すること、拒否や中断が可能であること、参加は自由であり、不利益を受けることはないことを約束し、参加の署名、同意を得た。

V 結果

1 家族介護者の属性（表1）

2 分析結果

1) 【日常生活での車椅子移乗介助状況：家族介護者や要介護者の状態に合わせた車椅子移乗】

〈食事〉

安定した姿勢がとれるよう車椅子に移乗介助し、テーブルの高さを工夫することで自力摂取してもらっていた。

〈排泄〉

日中は車椅子に移乗介助し要介護者の自立を促しながら、要介護者が出来ない部分を介助していた。夜間は床上で、オムツ交換を行っていた。

〈保清〉

入浴介助は身体的負担があるため、デイサービスに依頼していた。

〈更衣〉

車椅子に移乗介助し、毎日更衣を介助している人と必要最低限だけ介助している人がいた。

2) 【安楽な移乗介助方法の指導：家族介護者のニーズに合わせた援助の必要性】

〈学習ニーズ〉

車椅子移乗介助について、リハビリスタッフに少しでも安楽な方法や自家用車への移乗介助を習いたい人がいた。その一方で移乗介助は自分流の方が楽だった人がいた。

- 3) 【身体的負担があっても在宅介護したいという思い：一緒にいることでの安心感と介護をするのは当然という考え】

〈介護負担感〉

高齢化に伴う体力低下、介護による腰痛や下肢痛など身体的負担があった。

〈介護への思い〉

寝たきり状態になると介護が困難になるので、車椅子に移乗介助し介護するのは当たり前という思いと傍にいただけで安心できるので出来る限り在宅介護したいという思いがあった。

- 4) 【在宅介護を継続する上での不安誘因：副介護者の存在】

〈副介護者の無〉

介護負担が大きくなり、もっと介護サービスを増やしたくても受け入れ施設が見つからず、自分自身の体調が悪くなった時の介護が心配だと思っていた。

- 5) 【介護に困った時の相談相手：介護経験者と看護師の存在】

〈介護相談〉

介護のことは介護経験者や看護師でないとわからないと思っていた。

- 6) 【気分転換：家族介護者自身のための楽しみ】

〈気分転換〉

要介護者と一緒に外食や散歩をしたり介護者同士で介護経験について談話することで、ストレスを解消していた。

- 7) 【車椅子移乗介助の困りごと：他者に要請することへの気兼ね】

〈緊急時の来院〉

緊急来院は、救急車か他の家族に依頼しないと来院出来ないと思っていた。

VI 考察

要介護者の【日常生活での車椅子移乗状況】には、家族介護者の【身体的負担があっても在宅介護を継続したいという思い】があった。そこには、要介護者に対する愛着と家族介護者自身の責務があると考ええる。

家族介護者が要介護者を車椅子に移乗介助しているのは、三谷らが「移乗・移動動作能力低下により介護負担感は強くなり、身体的負担が大きくなる」²⁾と述べているように、家族介護者は介護経験から要介護者のADL低下が介護負担感を招くということを感じ取り、自分で工夫し自分自身や要介護者の身体的状況に合わせて車椅子移乗介助を行っていた、と考える。

しかし、外来看護師は、診療の補助を中心に行っており家族介護者との関わりが十分に出来ず、工夫方法や困りごとを聞き出せていなかった。だが、家族介護者は【介護に困った時の相談相手】として看護師を挙げており、外来看護師は短時間の関わりの中でも家族介護者が思いを表出できるよう傾聴し、家族介護者のニーズを把握することが必要であると考え。そこで、診療の待ち時間に、家族介護者にも声をかけ、在宅での困りごとを聞きだし、在宅介護を継続

したいという思いを尊重しながら介入していくことが重要であると考え。

その一方で、介護生活で自分が体調を崩した時に副介護者がいないことや、介護者自身の高齢化に伴う体力低下により、介護サービスを増やしたいと思っても希望する介護サービスを受けることが出来ないことが【在宅介護を継続する上での不安誘因】となっている。【車椅子移乗介助の困りごと】では、他者に依頼することへの遠慮や救急車を要請し受診しても帰宅手段がないため家族介護者が不安になると考える。

車椅子移乗介助の学習ニーズには、少しでも自分自身の身体的負担の軽減をしたいという思いと、自家用車への移乗方法を習いたいという思いがある。後者の思いには他者に依頼する事への気兼ねする気持ちが影響していると考え。そこで【安楽な移乗介助方法の指導】として、更に効果的な方法を学べる場を提供していくため、リハビリスタッフと連携した体制づくりが必要である。

VII 結論

- 1 食事・排泄・保清・更衣は、家族介護者と要介護者の状態に合わせて車椅子移乗介助していた。
- 2 移送サービスを利用出来ない時の来院手段に困っていた。
- 3 車椅子移乗介助の学習ニーズは、身体的負担を軽減できる移乗介助方法を習いたいことであった。
- 4 相談相手として看護師を挙げており、外来看護師とリハビリスタッフとの連携が必要である。

《引用文献》

- (1) 一原由美子・鈴江毅；家族の介護負担感に影響を及ぼす要因に関する検討,香川県立保健医療大学紀要,第5巻,No39-45,2008
- (2) 三谷健・小松泰喜他；通所リハビリテーション利用者の居宅訪問の必要性について－介護負担の観点より－,理学療法学,30巻,P84,2003

《参考文献》

- (1) 上村さと美・秋山純和；Zarit 介護負担尺度日本語版（J-ZBI）を用いた家族介護者の介護負担感評価
- (2) 中清恵・武政誠一・嶋田智明；在宅要介護高齢者を介護する家族介護者の QOL に影響を及ぼす要因,保健紀要,23巻,13-22

当院における専門・認定看護師の資格取得に関する意識調査

○桶谷美恵子 千覚原香織 万代呂優子
梅林美果 多江千秋

はじめに

高度化・専門分野化が進む医療現場で看護師が求められる技術や看護の質は年々高まっている。

日本看護協会による専門・認定看護師資格制度が制定されてから20年ほど経過して、全国には2012年で専門看護師約1,000名、認定看護師約10,000名が取得している。当院は高齢化率が40%を超えた地域に所在する唯一の中核病院で、認知症を伴う慢性疾患で入退院を繰り返す患者が多く、高齢者に対する専門的看護が求められているが、当院にはまだ資格取得者がいない。

当院においても2011年から2013年に看護の質の向上を目的に専門・認定看護師の派遣があり、その研修内容は若手看護師に大きな影響を与えた。以前、当院でも県からの育成資金を利用した研修費の補助制度があり、認定看護師の資格取得希望者を募ったが、自ら希望する人はなく推薦された人も家庭的事情で断っていた。

医師不足が叫ばれる医療現場において、特定領域における高度な知識とスキルを持つ専門・認定看護師は、看護のエキスパートとして欠かせない存在となっている。そこで、当院に就業する看護師を対象に、専門看護師ならびに認定看護師の資格取得に関する意識調査を行い、今後の支援の方向性を検討する材料に活かしていきたいと考える。

I 研究目的

資格取得に対する意識調査を行い、ニーズを明らかにする。

II 研究方法

- 1 調査対象：当院に勤務する看護師で、産休・育休・病休・臨時看護師は除く99名
- 2 調査方法：無記名自己記入式質問紙調査法
- 3 調査期間：2013年11月

III 倫理的配慮

調査対象である看護師に本研究の趣旨、調査への協力は自由意志で回答は任意であること、得られたデータは研究以外に使用しないこと、調査票は無記名でありデータは統計処理することによって個人が特定されることはないこと、研究終了後は確実に破棄されることなどを記載

した依頼文と共に配布した。

IV 結果

1 資格認定制度の認知状況

資格認定制度の認知度は 95 名が認知していた。

2 社会的支援

1) 職場のサポート

職場のサポートがあっても、資格取得したいと思わないと答えた人が 33 名であった。

2) 家族のサポート

家族のサポート体制が得られると答えた人が 39 名であった。

3 資格取得に対するニーズ

1) 専門看護師

将来、専門看護師の資格を取得したいと思う人は 15 名であった。

2) 認定看護師

将来、認定看護師の資格を取得したいと思う人は 18 名であった。

3) 学習に対するニーズ

学習に関しては、看護の質をあげるために資格取得者が必要だと思うと答えた人が 90 名と多かった。

石川県に養成機関が存在しないという地理的条件が資格取得できない要因だと思う人が 77 名であった。平成 26 年度に石川県立看護大学での認定看護師の養成コース「感染管理」が開設されるにあたり、資格取得希望者は 7 名であった。

V 考察

今回の調査では、看護の質を上げるために資格取得者が必要だと思うと答えた人が 90 名と多かった。しかし、受講するには乗り越えなくてはならない困難があると思っている人も多く、それは、希望の専門分野に進もうとすると、近くても愛知県や関東・関西地区となり、自宅からの通学は困難であると感じているからである。

平成 26 年度に石川県立看護大学において「感染管理」が開設される。将来認定看護師の感染管理の取得希望者はいなかったが、石川県で受講できるのであれば取得したいと考える人が 7 名いた。これは、通学できる範囲内であるため、希望者があったのではないかと思われる。希望者のうち 20 歳代 1 名、30 歳代 3 名、40 歳代 2 名、50 歳代 1 名であった。寺門らは「経験年数を重ねた看護職の方が、学習活動をより行っていることが示された。」¹⁾と述べているように、ライフイベントの経過とともに自分のために使える時間が増え、30～50 歳代にかけての希望者がいたと思われる。

当院は高齢化率が 40%を超えた地域に所在する唯一の中核病院で、認知症を伴う慢性疾患などの入退院を繰り返す患者が多く、高齢者に対する専門的看護が求められる。しかし、専門看

看護師の資格取得希望者が多かったのは「がん看護」であった。このことは我が国の死因の第一位が悪性新生物であり、現在もなお増加傾向をみせているからと思われる。当院外来でも化学療法を行っており、病棟では基礎疾患にがんがある患者が多く疼痛緩和ケアが求められていることから、「がん看護」の資格取得希望者が多かったのではないかとと思われる。

次に、「救急看護」の希望が多かった理由として、当院では24時間体制で全ての救急患者を受け入れており、生命に直結する救急医療や様々な事態に対応しなくてはならないということから学習の必要性を考えているのではないかと推察される。更に、急変時に落ち着いて対応ができるように、より知識や技術を深めたいという看護師が多いのではないかとと思われる。

当院では経験年数5年以上の看護師が多く、認定看護師の資格取得はできる条件は満たされている。しかし、専門看護師の資格取得となると、当院には大学卒業者が少ないため、大学や大学院への就学過程は長く、厳しいと考えられる。山口らは「進学に際しては、在学中も含め経済的な基盤が確保されることが必須である。そのためには、就学と学業の両立、あるいは学業に専念するとしても雇用を確保するなど職場のサポートが求められる」²⁾と述べていることから、当院は僻地でもあり、仕事と学業を両立できる環境ではないと思われる。このことから、自宅でIT化を利用した資格取得ができる方法があると僻地であっても資格取得が容易になるのではないかと考えられる。

社会的支援では、家族のサポート体制として協力は得られるが、当院では既婚者が多く出産・育児なども影響し、家族との時間も大切にしたい、研修のため長期間家を留守にできない、子供を預けていけないという理由から家族に負担をかけてしまうため資格取得に対して踏み切れないと考えられる。そして、職場のサポート体制として、本人の意志があり申請すれば在籍したままで就学でき、学費や家賃など金銭面の補助も受けることができるが、当院のサポート体制を知っている人は29名と少なかった。そのため、全看護師対象に情報公開する必要があると考えられる。

一方、職場のサポート体制があっても資格取得したいと思わない人は75名だった。これは、当院には資格取得者が必要だと思っても、誰かが取得してくれればよい、現状に満足はしていないが不満はなくスキルアップを望んでいない、現状維持でよいなどの思いがある職場風土からではないかと考えられる。また、専門分野の希望があっても異動があり継続できない、資格取得した後のメリットはないことも要因の一つと考えられる。これを改善するには資格取得後の意欲に繋がるサポート体制の構築、スキルアップやキャリアアップをする教育システムの構築が必要であると考えられる。

VI 結論

- 1 看護の質を上げるために資格取得が必要だと思うと答えた人は多かったがサポート体制があっても資格取得したいと思わない人も多かった。
- 2 資格取得に至っていない要因として、教育機関が存在しないという現状と僻地であるという地理的条件、資格取得後のメリットがないことなどが明らかになった。

- 3 資格取得後のサポート体制や専門の分野で活動できるサポート体制や、教育システムづくりが必要である。
- 4 急性期の看護への学習意欲が高いとわかった。

今後、専門看護師・認定看護師の育成は、質の高い看護を提供していく上でも推進されるべき重要課題であり、そうした資格取得の受講のあり方を検討すべきである。今回のアンケートでは詳細な内容が把握できず限界があった。

《引用文献》

- (1) 寺門とも子他：看護職者のキャリア形成にむけた学習ニーズの分析－九州ブロック N 系病院 9 施設における調査－，日本赤十字看護学会誌，106—116，2005
- (2) 山口さおり他：鹿児島県における専門看護師・認定看護師に関する教育ニーズ調査，日農医誌，59 卷 1 号，35—43，2010

《参考文献》

- (1) 本田芳香他：大規模病院で働く看護職のキャリアニーズの特性－地方都市の大学病院における調査から－，自治医科大学看護学ジャーナル，第 10 卷，47—57，2012

病院年報 平成26年度版
発行／珠洲市総合病院
〒927-1213 石川県珠洲市野々江町二部1番地1
TEL 0768-82-1181(代表) FAX 0768-82-1191
E-mail byouin@city.suzu.lg.jp
発行日／平成27年7月
制作担当／事務局